

渡り廊下屋根 スカイパス・両支持タイプ 施工説明書

- この度は、当社製品をご採用いただき誠にありがとうございます。
商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この施工説明書をよくお読みの上、作業を行ってください。
- 本説明書に示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。
施工にあたっては必ずお守りください。
- 施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
- この説明書は施工後必ず施工主様へお渡しください。

注意事項

施工にあたっては次の点をご確認ください。

◎設置場所・位置について



- ガス給湯器などの熱や排気ガスが製品に直接当たる、またはこもるような場所に設置しないでください。熱による塗装劣化・剥離（はくり）、また排気ガスによる腐食の原因になります。

◎施工時の注意事項

- モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。
- モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
- アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。

- 埋込柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や柱の凍結破損の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品に付着しないようご注意ください。
- 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- 基礎施工は、地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱位置を決めてください。
- 地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。
- 養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
- 改造・変更をしないでください。

この説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

| 絵表示 | 意味 | 絵表示 | ご使用上の注意とお願い |
|---|--|---|-----------------------|
|  | この表示を無視して誤った取扱いをすると使用者等が負傷する危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。 |  | 「必ず行っていただくこと」を示しています。 |

⚠️ 注意

- 各ボルト・ビス類は、確実に締め付けてください。
- 無理にボルト・ビスを締め付けしないでください。破損の原因となります。



傾斜・コーナー納まりの場合は、各タイプの施工説明書を合わせて参照してください。

- ・傾斜納まり・・・傾斜用ユニット [ME-1751]
- ・直角コーナー・・・直角コーナーユニット [ME-1752]
- ・Rコーナー・・・Rコーナーユニット [ME-1753]

もくじ

| | | | |
|----------------------------|----|-------------------------------|----|
| 梱包明細..... | 2 | 7. 桁の本締めとコンクリートの打ち込み..... | 19 |
| 各部の名称..... | 3 | 8. 中骨の取付け..... | 20 |
| 納まり図..... | 4 | 8-1 施工前の確認..... | 20 |
| 断面図・詳細図..... | 8 | 8-2 中骨の取付け..... | 20 |
| 1. 基礎の施工..... | 10 | 9. 屋根材の取付け..... | 21 |
| 2. 柱部品の取付け..... | 10 | 9-1 施工前の確認..... | 21 |
| 3. 桁の取付け..... | 11 | 9-2 屋根材の取付け..... | 21 |
| 3-1 平地納まりの場合..... | 11 | 10A. 雨樋の取付け（※平地納まりの場合）..... | 23 |
| 3-2 傾斜納まりの場合..... | 12 | 10B. 雨樋の取付け（※傾斜納まりの場合）..... | 25 |
| 4. 桁の連結（※連棟・延長納まりの場合）..... | 14 | 11. 縦樋カバーの取付け（※オプション）..... | 27 |
| 5. 垂木の取付け..... | 15 | 11-1 縦樋カバーの切断（※傾斜納まりの場合）..... | 27 |
| 6. 側枠の取付け..... | 17 | 11-2 縦樋カバーの取付け..... | 28 |
| 6-1 施工前の確認..... | 17 | 施工完了時の注意事項..... | 28 |
| 6-2 側枠の取付け..... | 17 | 施工工事店様、販売店様へのお願い..... | 28 |

梱包明細

- 施工前に、部材数量および部品数量を確認してください。また、品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
- 説明書に記載している部材・部品（ビス含）以外は使用しないでください。

表内の（ ）は個数を表しています。※は奥行または間口によって個数が異なります。

| 梱包名称 | | 梱包内容 |
|----------|--------|---|
| 両支持柱セット | 2本入り | 標準柱 標準柱 (2)・桁ブラケットセット (2) [桁ブラケット B (1)・M8×18六角セムスボルト (4)] |
| | | 長柱 長柱 (2)・桁ブラケットセット (2) [桁ブラケット B (1)・M8×18六角セムスボルト (4)] |
| | 1本入り | 標準柱 標準柱 (1)・桁ブラケットセット (1) [桁ブラケット B (1)・M8×18六角セムスボルト (4)] |
| | | 長柱 長柱 (1)・桁ブラケットセット (1) [桁ブラケット B (1)・M8×18六角セムスボルト (4)] |
| 傾斜用束柱セット | | 傾斜用束柱 (上下各2)・M10×50六角ボルト (2)・M10用平座金 (4)・M10用バネ座金 (2)・M10袋ナット (2) 桁取付裏板 (2)・M8×25六角セムスボルト (4)・φ6×25トラスタッピン3種 (8)・アンカー棒 (2) |
| 桁取付部品セット | | アンカー棒 (2)・桁取付ブラケット A (2)・φ6×20皿タッピン3種 (8) M8×18六角セムスボルト (4)・桁ブラケット用裏板 (2) |
| 桁・中骨セット | 奥行：58 | 桁 (左右各1)・中骨 (24) |
| | 奥行：36 | 桁 (左右各1)・中骨 (15) |
| | 奥行：29 | 桁 (左右各1)・中骨 (12) |
| 垂木セット | 4本入り | 垂木 (4)・押え材 (4) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (24/36/45/60※)] 垂木ブラケットセット (2) [垂木ブラケット (4)・φ5×20トラスタッピン3種 (16)] 垂木排水部品セット (2) [垂木排水部品 (4)・φ4×13セルフドリリングビス (8)] |
| | 3本入り | 垂木 (3)・押え材 (3) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (24/36/45※)] 垂木ブラケットセット (1) [垂木ブラケット (6)・φ5×20トラスタッピン3種 (24)] 垂木排水部品セット (1) [垂木排水部品 (6)・φ4×13セルフドリリングビス (12)] |
| | 2本入り | 垂木 (2)・押え材 (2) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (16/24/36※)] 垂木ブラケットセット (1) [垂木ブラケット (4)・φ5×20トラスタッピン3種 (16)] 垂木排水部品セット (1) [垂木排水部品 (4)・φ4×13セルフドリリングビス (8)] |
| 側枠セット | | 側枠 (2)・押え材 (2) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (16/24/36※)] |
| 縦雨樋セット | | 縦樋 (2) |
| 標準部品箱 | 単体用 | 桁端部ブラケット (左右各2)・φ4×14トラスタッピン3種 (12)・孔フサギシール (4)・φ5×20トラスタッピン3種 (8) 雨樋部品セット (両支持2・片支持1) [落し口パッキン (2)・落し口 (1)・エルボ88° (2) 固定バンド A (3)・固定バンド B (3)・水抜き穴塞ぎ (1)・接着剤 (1)・φ4×12トラスタッピン3種 (4) φ4×19セルフドリリングビス (3)・ドレンエルボ (1)] 施工説明書 [ME-1750] (1)・取扱説明書 [MET-1001] (1) |
| | 連棟・直線用 | 桁連結スリーブ (2)・φ4×19細目セルフドリリングビス (16)・雨樋連結裏板 (2) φ4×14トラスタッピン3種 (4)・止水パッキン (桁連結部) (2)・桁連結部カバー (コーナー用) (2) 雨樋部品セット (両支持2・片支持1) [落し口パッキン (2)・落し口 (1)・エルボ88° (2) 固定バンド A (3)・固定バンド B (3)・水抜き穴塞ぎ (1)・接着剤 (1)・φ4×12トラスタッピン3種 (4) φ4×19セルフドリリングビス (3)・ドレンエルボ (1)] |
| | 連棟・傾斜用 | 桁連結スリーブ (2)・φ4×19細目セルフドリリングビス (16)・雨樋連結裏板 (2) φ4×14トラスタッピン3種 (4)・止水パッキン (桁連結部) (2)・止水パッキン (傾斜用) (2) 桁連結部カバー (コーナー用) (2) 傾斜用雨樋部品セット (両支持2・片支持1) [落し口パッキン (2)・落し口 (1)・エルボ88° (2) 固定バンド A (3)・固定バンド B (3)・水抜き穴塞ぎ (1)・接着剤 (1)・φ4×12トラスタッピン3種 (4) φ4×19セルフドリリングビス (3)・雨樋ジャバラ (1)・ジャバラパイプカバー (1)] |
| 屋根材 | 3枚入り | 屋根材 (3) |
| | 2枚入り | 屋根材 (2) |

別売品

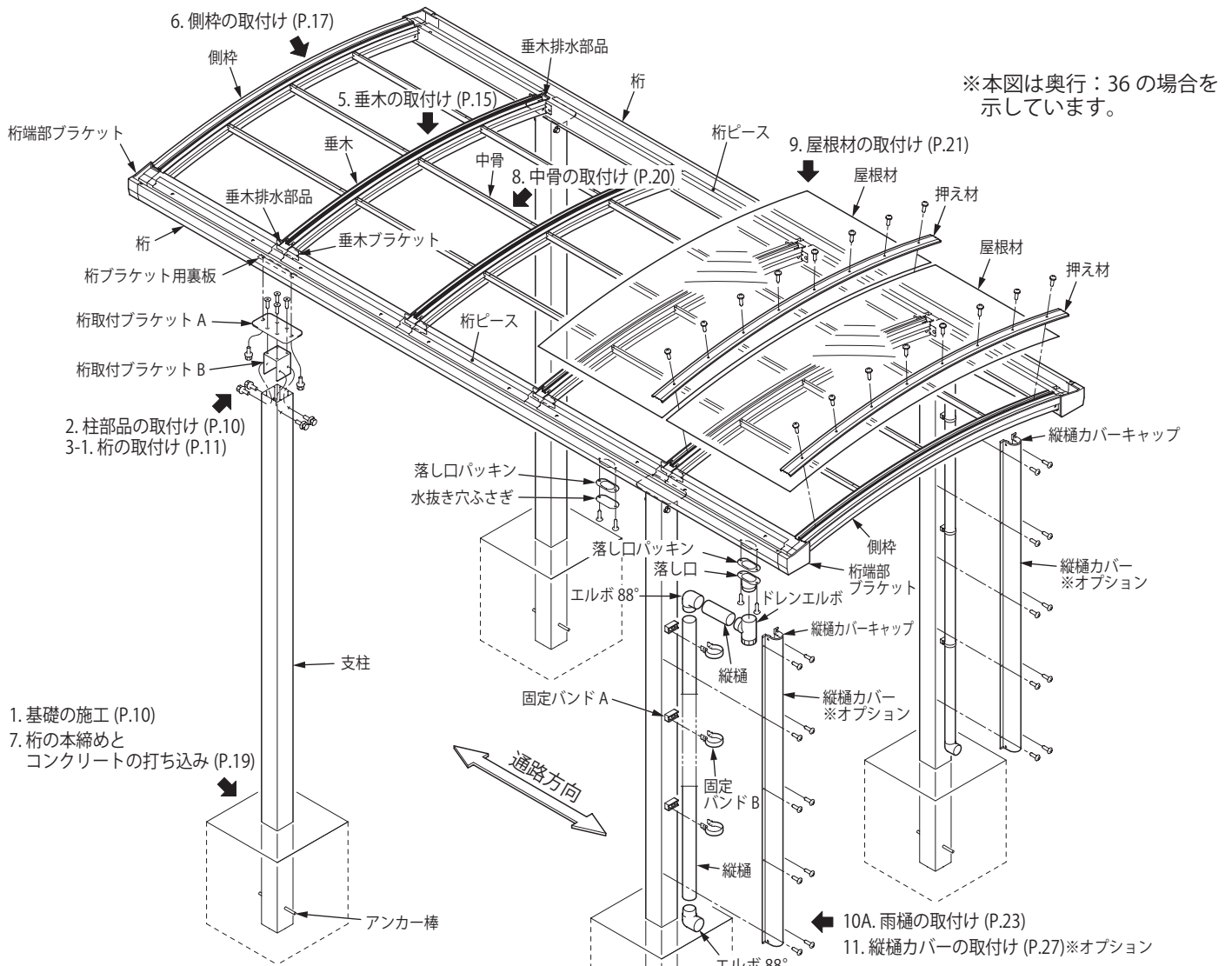
表内の（ ）は個数を表しています。

| 梱包名称 | 梱包内容 |
|----------|---|
| 縦樋カバーセット | 縦樋カバー (1)・縦樋カバーキャップセット (1) [縦樋カバーキャップ (2)・φ4×8トラスタッピン3種 (4)・φ4×19セルフドリリングビス (12)] |

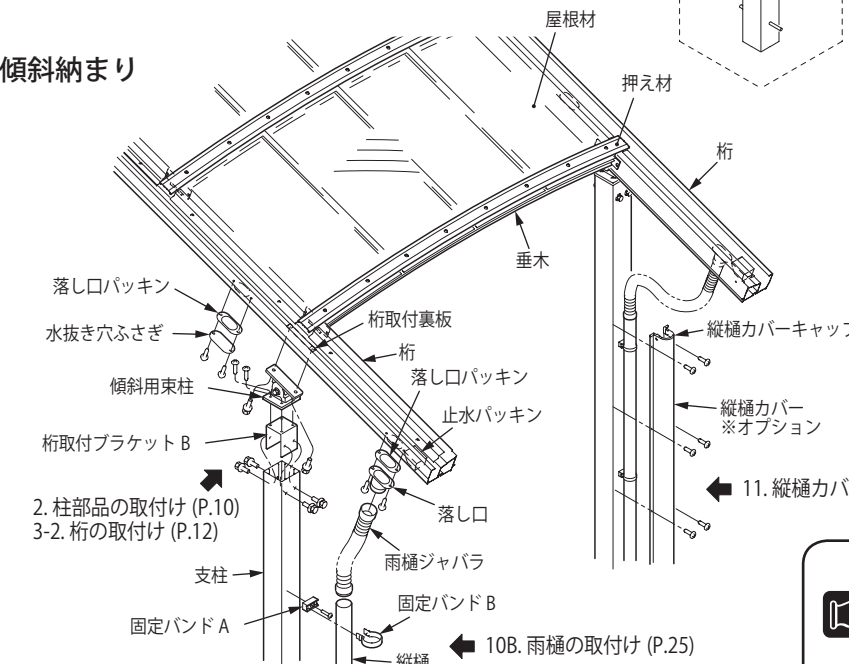
各部の名称

●組立施工および調整の説明項目を示しています。組立前に確認してください。
 ●納まり・傾斜などによって、施工のときに参照するページが異なります。
 ※（ ）内は説明ページを示しています。

●平地納まり

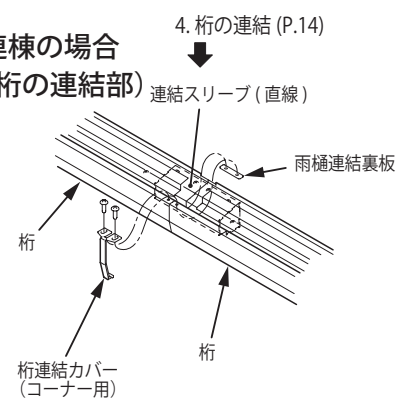


●傾斜納まり



●連棟の場合

(桁の連結部)



落し口位置は、奥行や柱移動の有無によって変わります。
 ※詳細については、23～26ページの「10. 雨樋の取付け」を参照してください。

納まり図

●施工前に必ず確認してください。

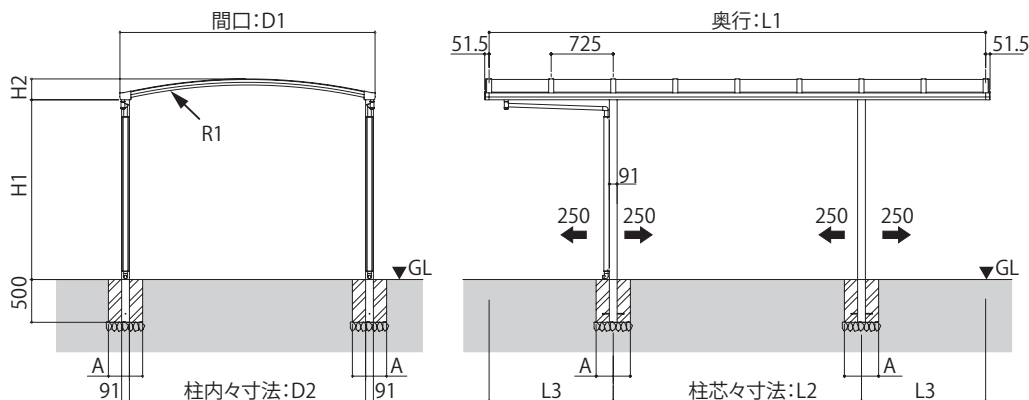


- 桁1本につき、柱2本が標準です。
- 奥行:29は延長納まりのみとなります。桁1本につき、柱は1本になります。(傾斜ジョイントに連結する場合は、柱が2本必要になります。)
- 平地納まりの場合は、柱を±250mmまで移動することができます。
- 傾斜納まりの場合は、柱を±100mmまで移動することができます。

平地・単体納まり

※本図は、奥行:58、間口:30の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。



ME1750-016-3

●基本寸法表

| 奥行 | L1 | L2 | L3 |
|----|------|------|------|
| 36 | 3625 | 2175 | 725 |
| 58 | 5800 | 2900 | 1450 |

(mm)

| 間口 | D1 | D2 | R1 | H2 |
|----|------|------|-------|---------|
| 12 | 1180 | 959 | R2262 | (145) |
| 17 | 1680 | 1459 | R3448 | (172) |
| 20 | 1980 | 1759 | R4013 | (191.5) |
| 23 | 2280 | 2059 | R4890 | (203.5) |
| 30 | 2980 | 2759 | R6430 | (243.5) |

(mm)

●基礎寸法表

| 地耐力 | A (平地) |
|---------|--------|
| 30 kN/㎡ | 550 |
| 50 kN/㎡ | 400 |

(mm)

| 柱の種類 | H1 |
|------|------|
| 標準柱 | 2100 |
| 長柱 | 2500 |

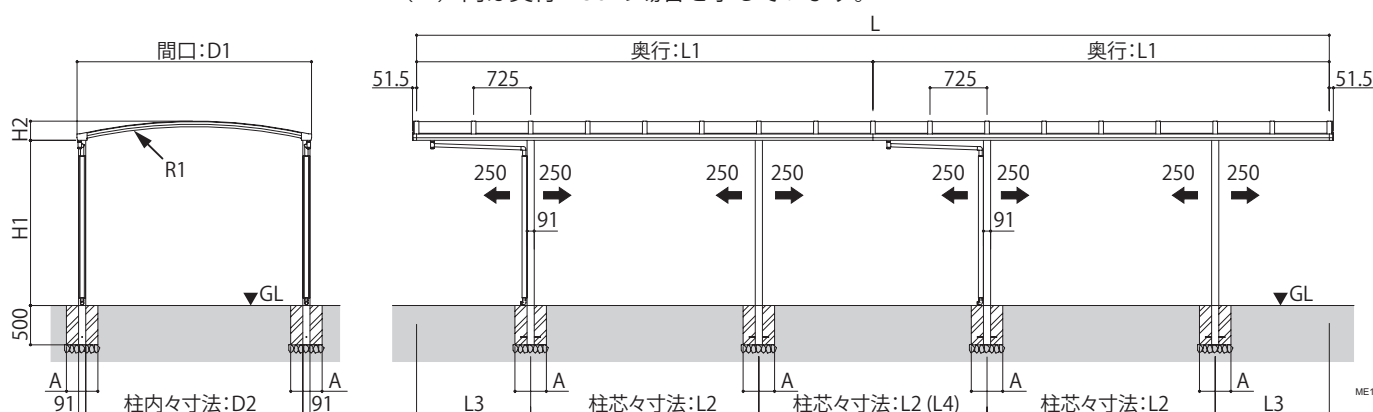
(mm)

平地・連棟納まり

※本図は、奥行:58、間口:30の2連棟の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※ () 内は奥行:36の場合を示しています。



ME1750-023-3

●基本寸法表

| 奥行 | L | L1 | L2 | L3 | L4 |
|----|-------|------|------|------|------|
| 36 | 7250 | 3625 | 2175 | 725 | 1450 |
| 58 | 11600 | 5800 | 2900 | 1450 | — |

(mm)

| 間口 | D1 | D2 | R1 | H2 |
|----|------|------|-------|---------|
| 12 | 1180 | 959 | R2262 | (145) |
| 17 | 1680 | 1459 | R3448 | (172) |
| 20 | 1980 | 1759 | R4013 | (191.5) |
| 23 | 2280 | 2059 | R4890 | (203.5) |
| 30 | 2980 | 2759 | R6430 | (243.5) |

(mm)

●基礎寸法表

| 地耐力 | A (平地) |
|---------|--------|
| 30 kN/㎡ | 550 |
| 50 kN/㎡ | 400 |

(mm)

| 柱の種類 | H1 |
|------|------|
| 標準柱 | 2100 |
| 長柱 | 2500 |

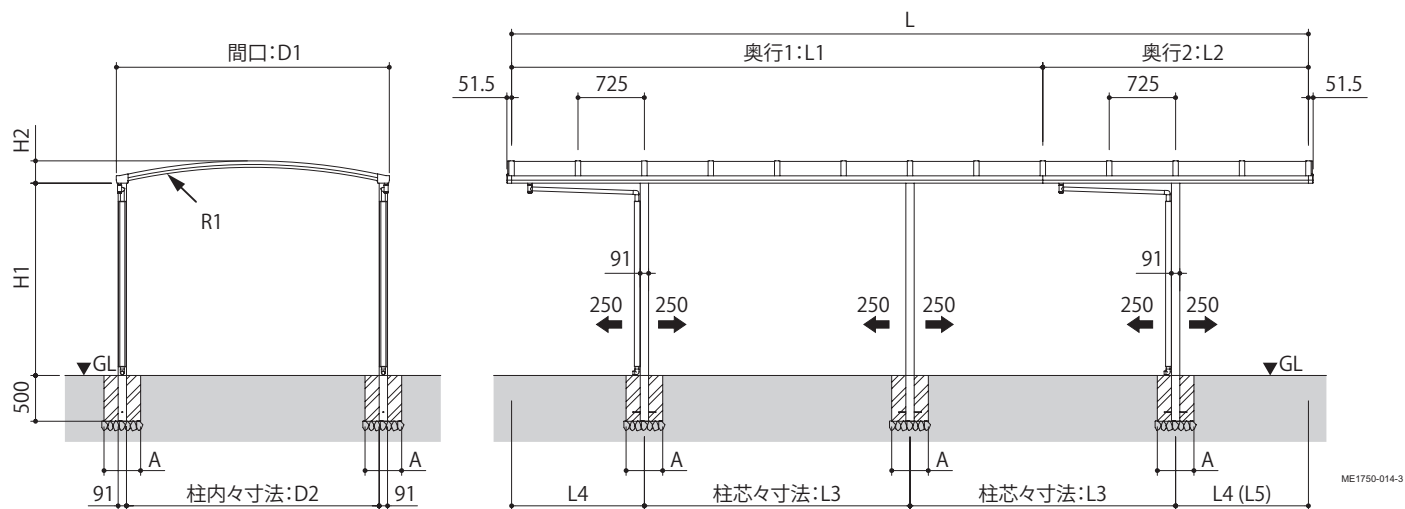
(mm)

平地・延長納まり

※本図は、奥行 58+29、間口：30 の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※ () 内は、奥行：36 の場合を示しています。



●基本寸法表

| 奥行 | L | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 36+29 | 6525 | 3625 | 2900 | 2175 | 725 | 1450 |
| 58+29 | 8700 | 5800 | 2900 | 2900 | 1450 | — |

(mm)

●基礎寸法表

| 地耐力 | A (平地) |
|-----------------------|--------|
| 30 kN/ m ² | 550 |
| 50 kN/ m ² | 400 |

(mm)

| 柱の種類 | H1 |
|------|------|
| 標準柱 | 2100 |
| 長柱 | 2500 |

(mm)

| 間口 | D1 | D2 | R1 | H2 |
|----|------|------|-------|---------|
| 12 | 1180 | 959 | R2262 | (145) |
| 17 | 1680 | 1459 | R3448 | (172) |
| 20 | 1980 | 1759 | R4013 | (191.5) |
| 23 | 2280 | 2059 | R4890 | (203.5) |
| 30 | 2980 | 2759 | R6430 | (243.5) |

(mm)

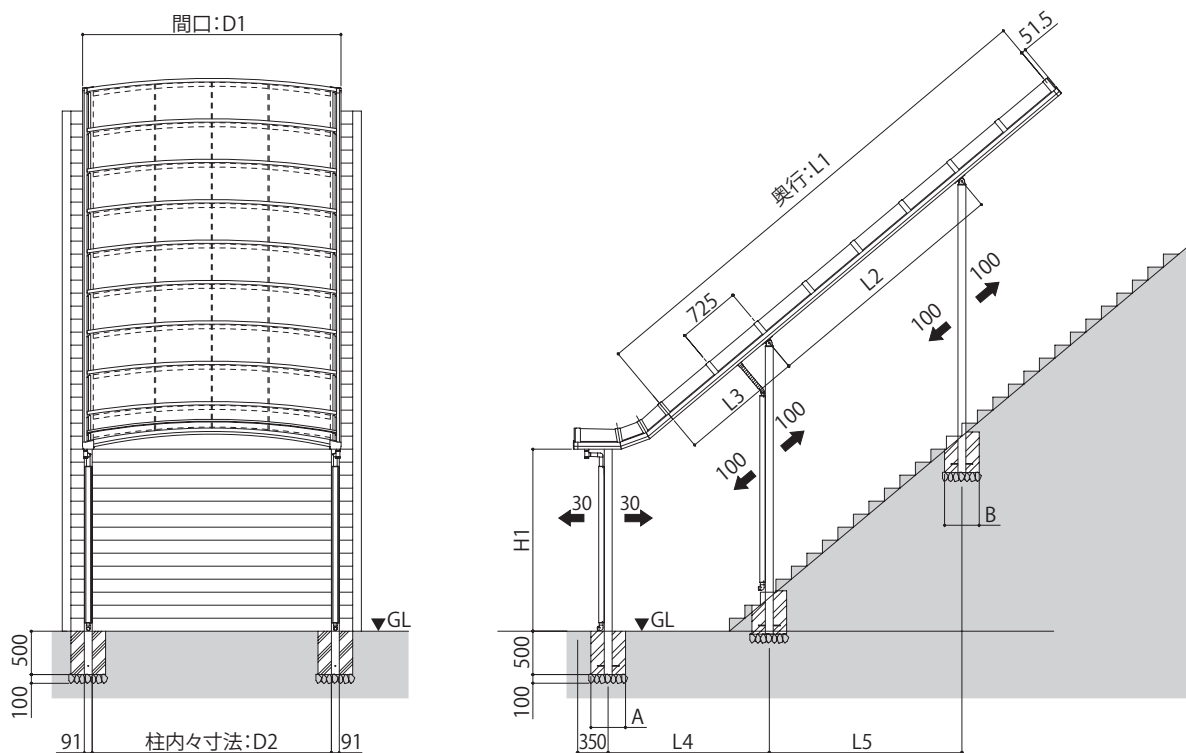
傾斜・単体納まり

※本図は、傾斜角度 40°、奥行：58、間口：30 の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※エンド底部の施工については、傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

※奥行：36は、柱移動をする場合、雨樋の位置が変わります。(詳細は26ページを参照してください。)



ME1750-018-3

●基本寸法表

(mm)

| 奥行 | L1 | L2 | L3 |
|----|------|------|------|
| 36 | 3625 | 2175 | 725 |
| 58 | 5800 | 2900 | 1450 |

(mm)

| 柱の種類 | H1 |
|------|------|
| 標準柱 | 2100 |
| 長柱 | 2500 |

(mm)

| 間口 | D1 | D2 |
|----|------|------|
| 12 | 1180 | 959 |
| 17 | 1680 | 1459 |
| 20 | 1980 | 1759 |
| 23 | 2280 | 2059 |
| 30 | 2980 | 2759 |

●基礎寸法表

(mm)

| 地耐力 | A (平地) | B (傾斜) |
|-----------------------|--------|--------|
| 30 kN/ m ² | 550 | 1200 |
| 50 kN/ m ² | 400 | 1100 |

●傾斜角度別寸法表

(mm)

| 奥行 | 傾斜角度 | L4 | L5 |
|-----|------|------|------|
| 36 | 5° | 1224 | 2167 |
| | 10° | 1215 | 2142 |
| | 15° | 1198 | 2101 |
| | 20° | 1173 | 2044 |
| | 25° | 1482 | 1971 |
| | 30° | 1438 | 1884 |
| | 35° | 1386 | 1782 |
| 58 | 5° | 1947 | 2889 |
| | 10° | 1929 | 2856 |
| | 15° | 1899 | 2801 |
| | 20° | 1855 | 2725 |
| | 25° | 2139 | 2628 |
| | 30° | 2066 | 2511 |
| | 35° | 1980 | 2376 |
| 40° | 1883 | 2222 | |

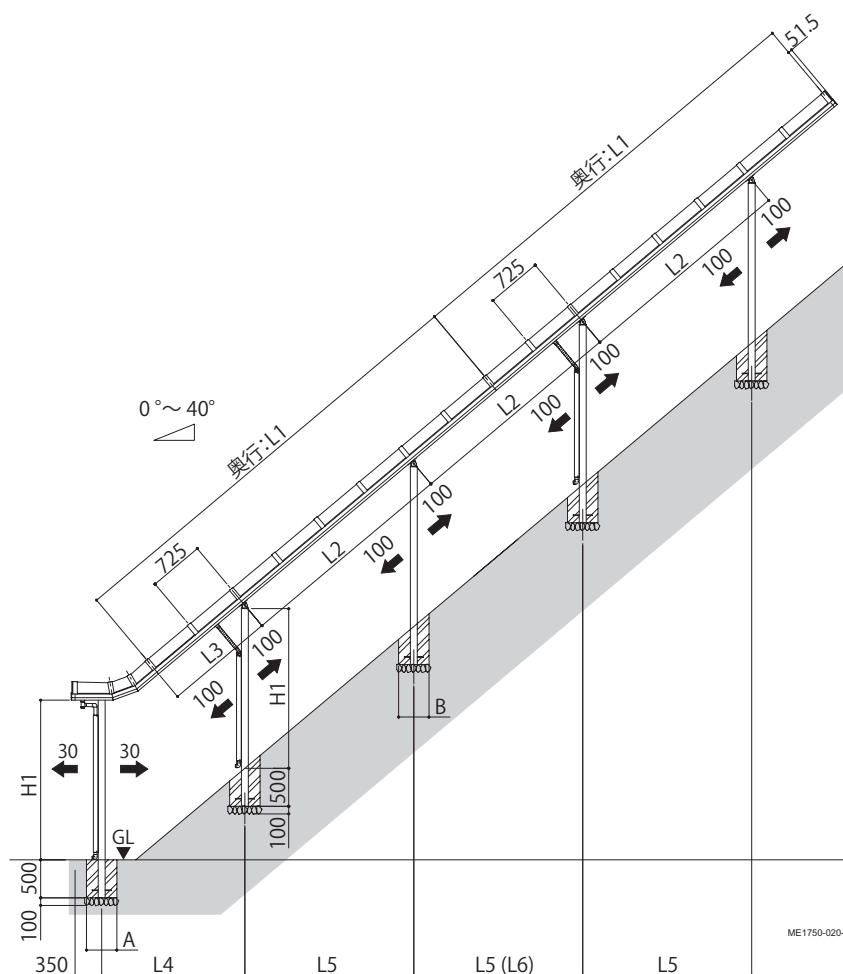
傾斜・連棟納まり

※本図は、奥行：58・間口：30の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※ () 内は奥行：36の場合を示しています。

※奥行：36は、柱移動をする場合、雨樋の位置が変わります。(詳細は26ページを参照してください。)



●基本寸法表

(mm)

| 奥行 | L1 | L2 | L3 |
|----|------|------|------|
| 36 | 3600 | 2175 | 725 |
| 58 | 5800 | 2900 | 1450 |

(mm)

| 柱の種類 | H1 |
|------|------|
| 標準柱 | 2100 |
| 長柱 | 2500 |

●基礎寸法表

(mm)

| 地耐力 | A (平地) | B (傾斜) |
|-----------------------|--------|--------|
| 30 kN/ m ² | 550 | 1200 |
| 50 kN/ m ² | 400 | 1100 |

●傾斜角度別寸法表

(mm)

| 奥行 | 傾斜角度 | L4 | L5 | L6 |
|-----|------|------|------|------|
| 36 | 5° | 1224 | 2167 | 1444 |
| | 10° | 1215 | 2142 | 1428 |
| | 15° | 1198 | 2101 | 1401 |
| | 20° | 1173 | 2044 | 1363 |
| | 25° | 1482 | 1971 | 1314 |
| | 30° | 1438 | 1884 | 1256 |
| | 35° | 1386 | 1782 | 1188 |
| 58 | 40° | 1327 | 1666 | 1111 |
| | 5° | 1947 | 2889 | — |
| | 10° | 1929 | 2856 | — |
| | 15° | 1899 | 2801 | — |
| | 20° | 1855 | 2725 | — |
| | 25° | 2139 | 2628 | — |
| | 30° | 2066 | 2511 | — |
| 35° | 1980 | 2376 | — | |
| 40° | 1883 | 2222 | — | |

※奥行：58の場合は、L6はありません。

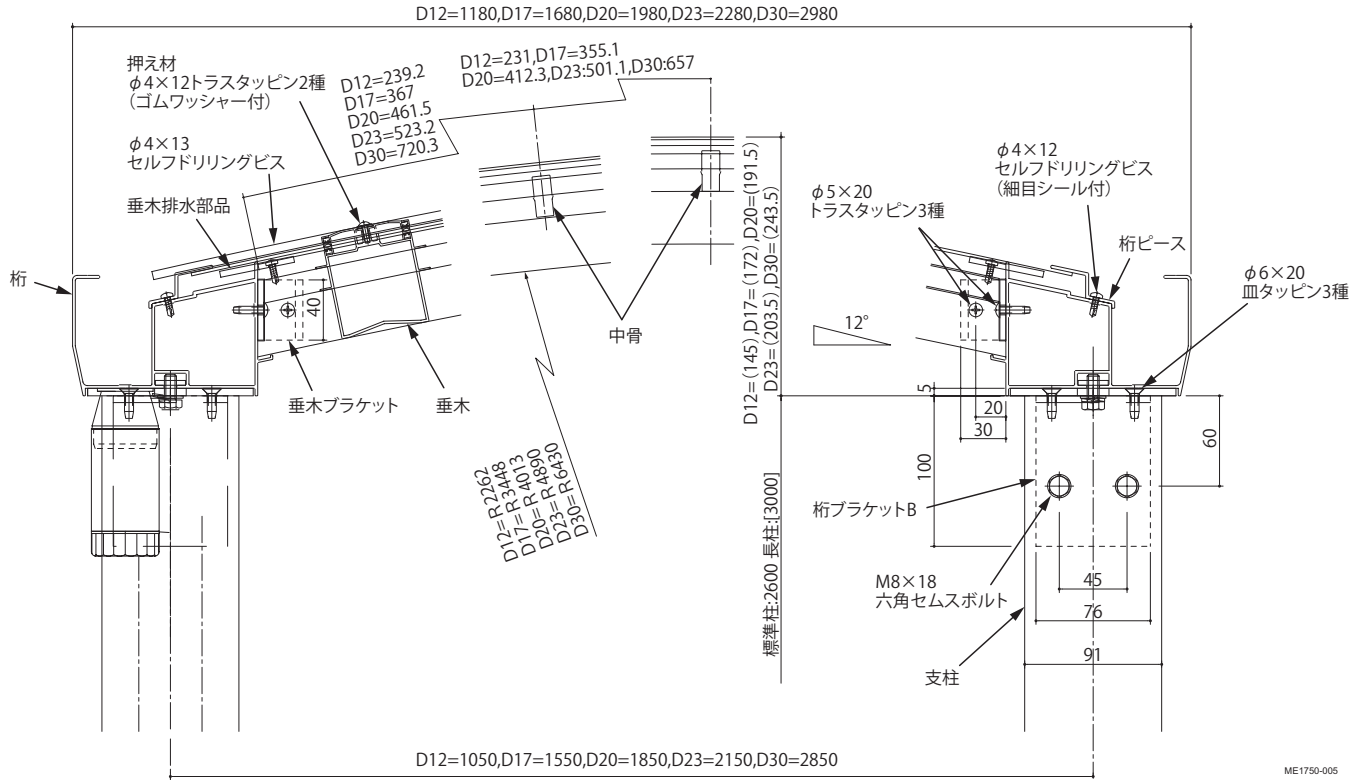
断面図・詳細図

●施工前に必ず確認してください。

断面図

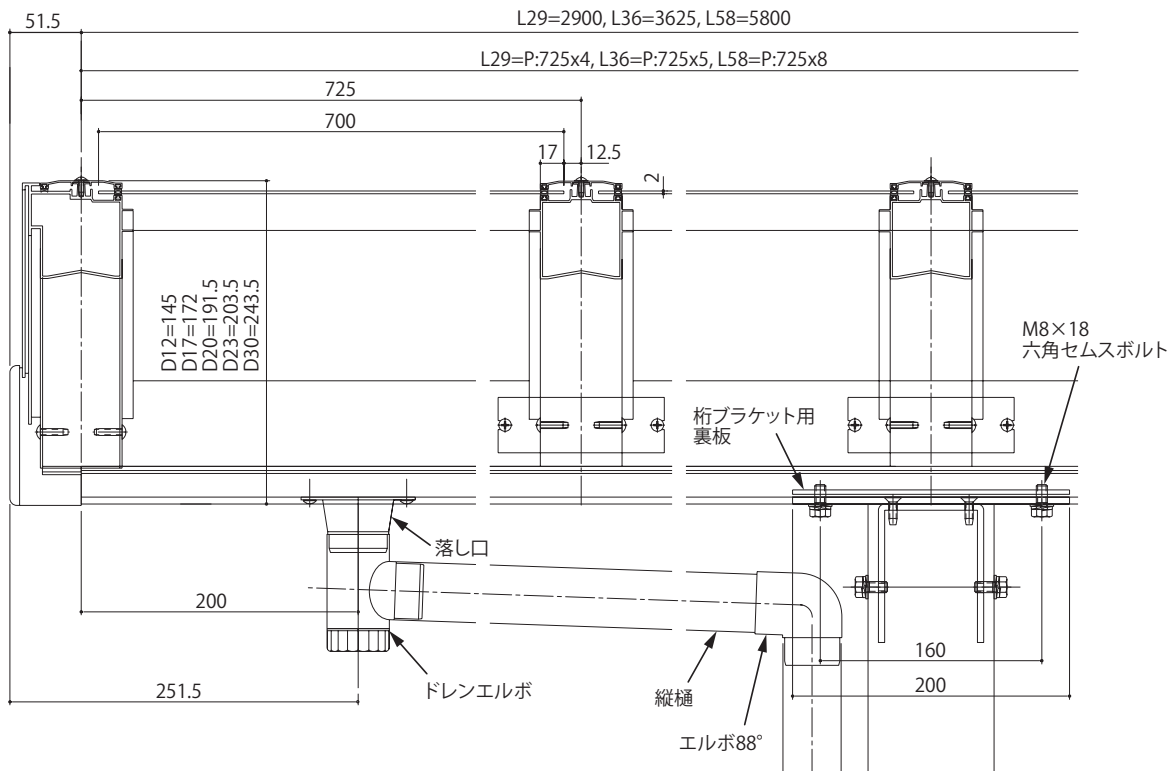
- ※本図は、傾斜なしの場合を示しています。
- ※記号 L は奥行、D は間口を示しています。
- ※ () 内は、参考寸法を示しています。
- ※ [] 内は、長柱の場合を示しています。

●横断面図



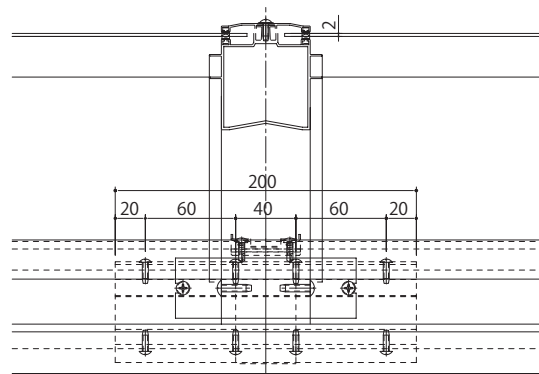
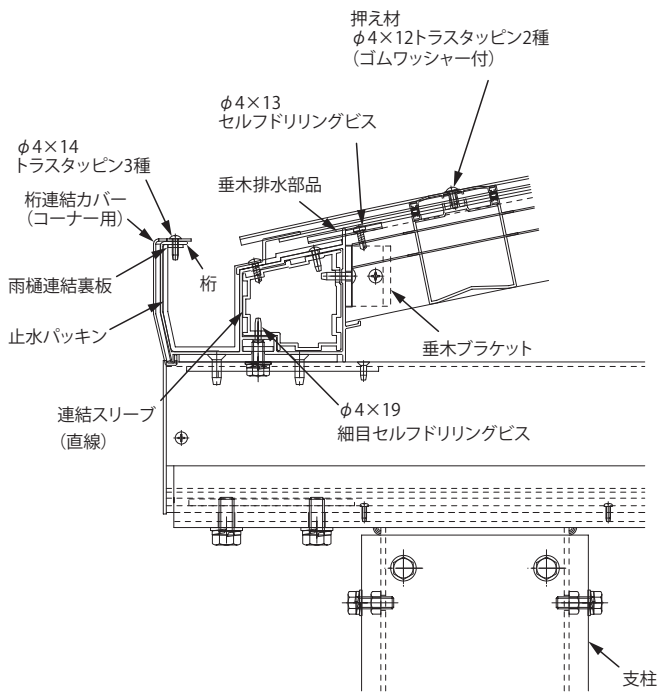
ME1750-005

●縦断面図



ME1750-006

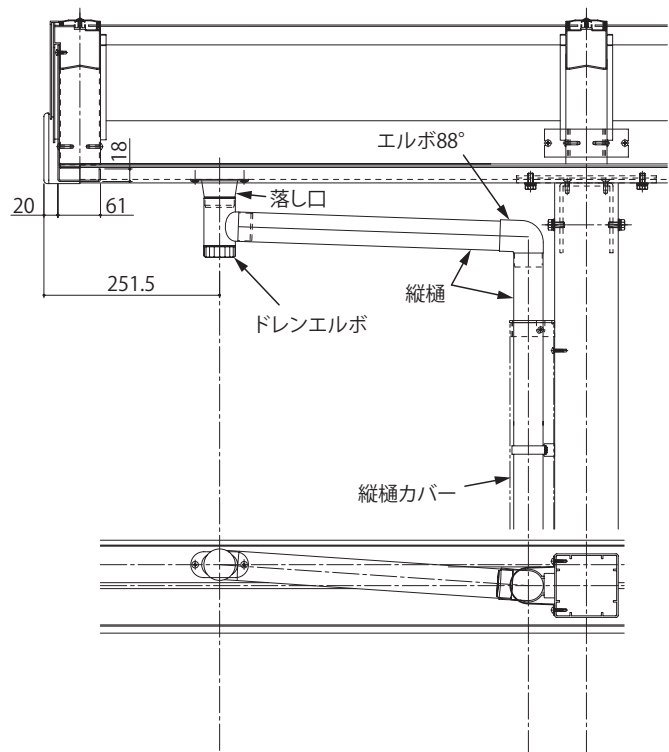
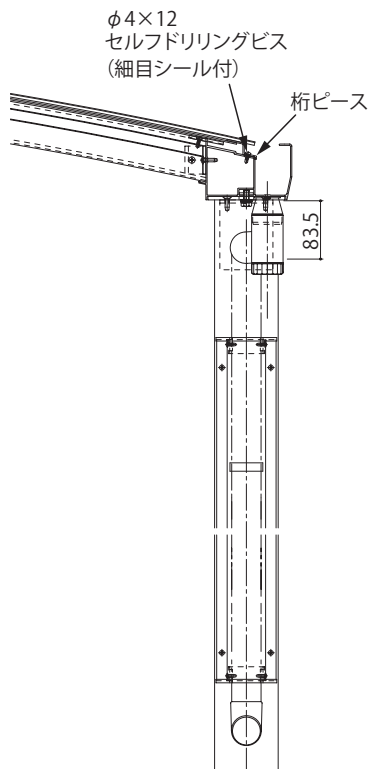
直線連結部・詳細図



ME1750-011

雨樋部詳細図

※本図は、傾斜なしの場合を示しています。



ME1750-007

1

基礎の施工

- 「納まり図」を参照して、柱の位置・基礎寸法を確認してください。
- 地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないように支柱の位置を決めてください。

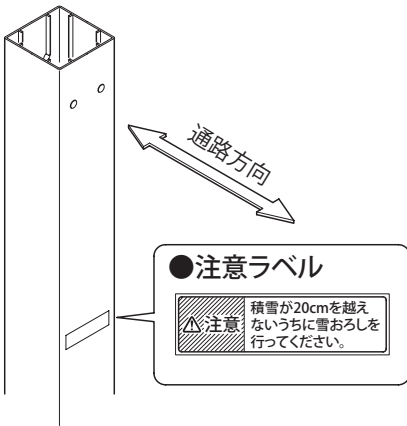
- ①「納まり図」を参照して、柱埋め込み位置を出し、指定以上の基礎穴を掘ってください。
- ②支柱の下部にアンカー棒を差し込んでください。



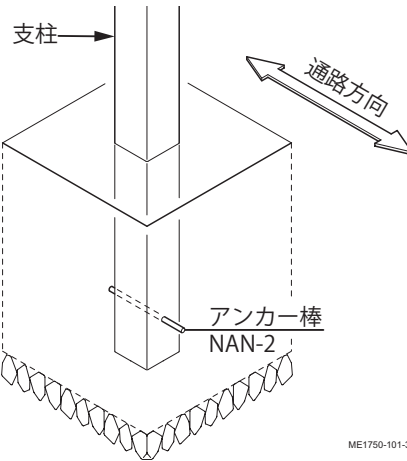
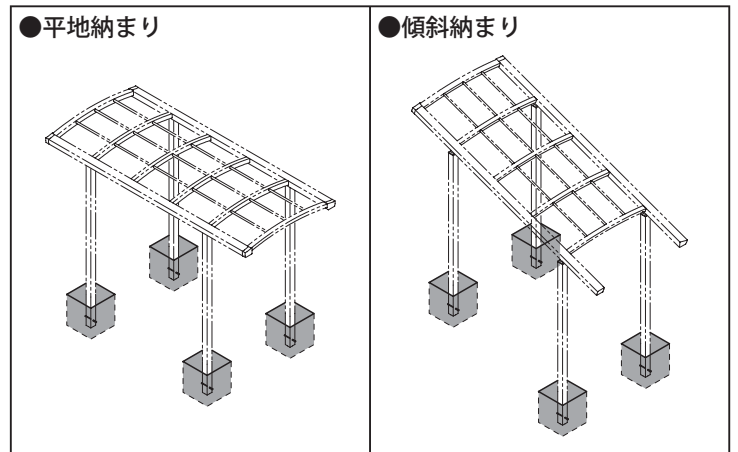
- コンクリートを打込み、完全に固定されるまでは、柱・屋根先端にそえ木をしてください。
 - コンクリートの施工は、骨組み完了後に行ってください。
- ※「7. 桁の本締めとコンクリートの打ち込み」参照



支柱の穴加工および注意ラベルを奥行方向に配置してください。



ME1750-103

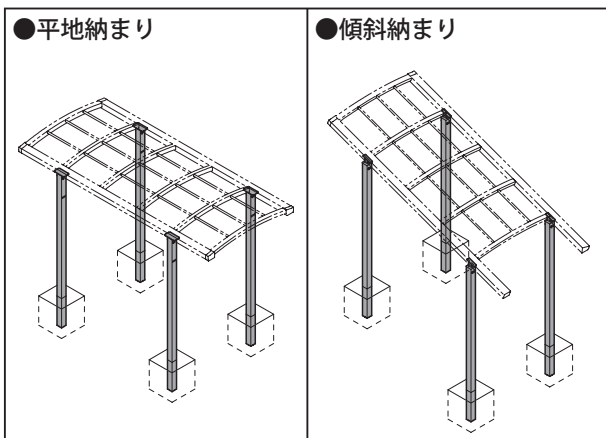


ME1750-101-3

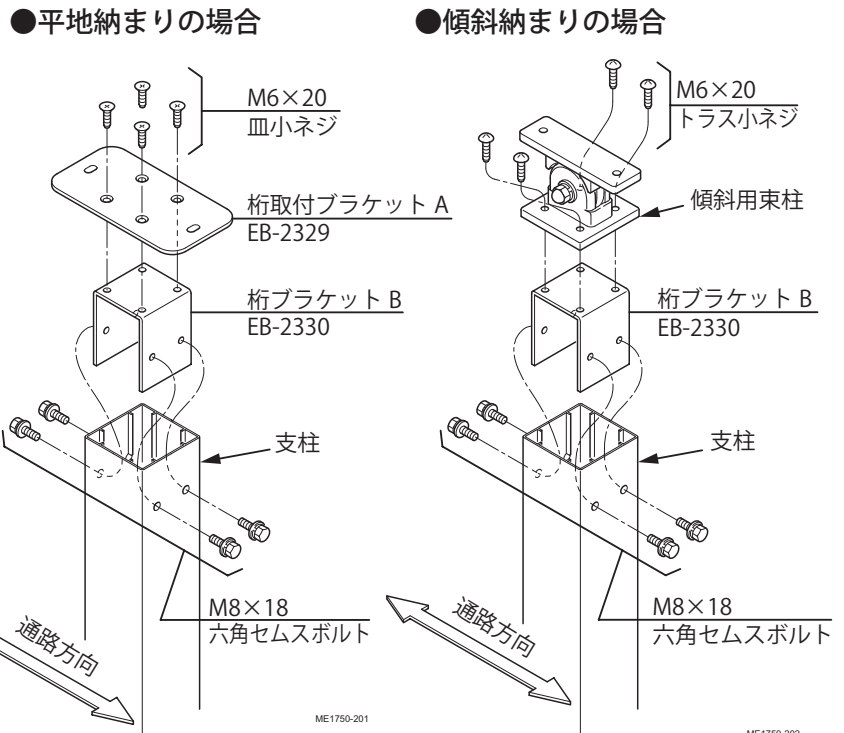
2

柱部品の取付け

- 傾斜納まりの場合は、傾斜用束柱を使用してください。



- ①支柱の上部に桁ブラケット B を取付けてください。
- ②平地納まりの場合は、桁取付ブラケット A を取付けてください。傾斜納まりの場合は、傾斜用束柱を取付けてください。



ME1750-201

ME1750-202

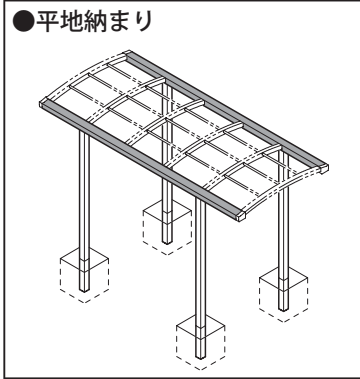
3

桁の取付け

- 桁 1 本につき、柱 2 本が標準です。
- 奥行：29 の桁は延長納まりのみになります。

3-1 平地納まりの場合

●平地納まり



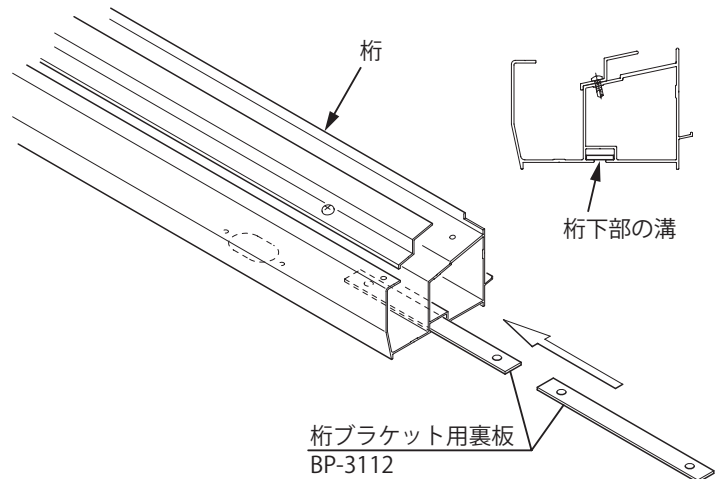
① 桁下部の溝に、桁ブラケット用裏板を挿入してください。



桁 1 本につき裏板を 2 枚挿入してください。ただし、奥行：29 の場合は 1 枚挿入してください。



奥行：29 の桁を傾斜ジョイントに連結する場合は、柱が 2 本必要になります。

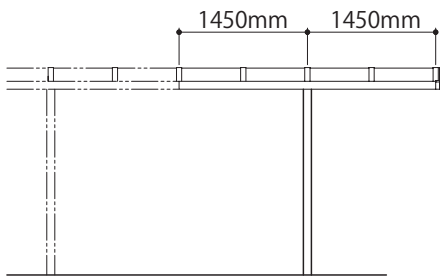


ME1750-301

② 「納まり図」と図を参照して、支柱の取付位置を確認してください。

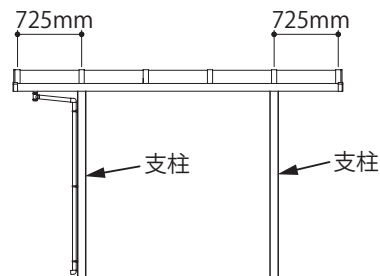
●取付位置図

奥行：29 の場合



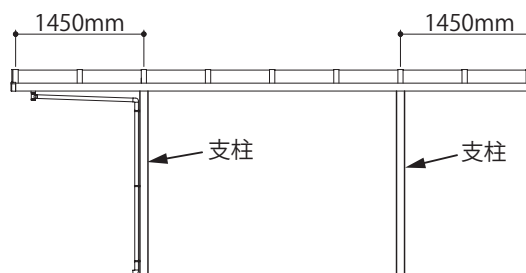
ME1750-314

奥行：36 の場合



ME1750-306

奥行：58 の場合



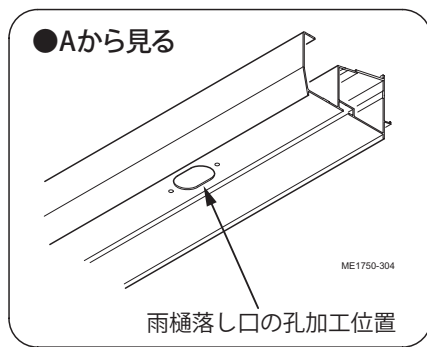
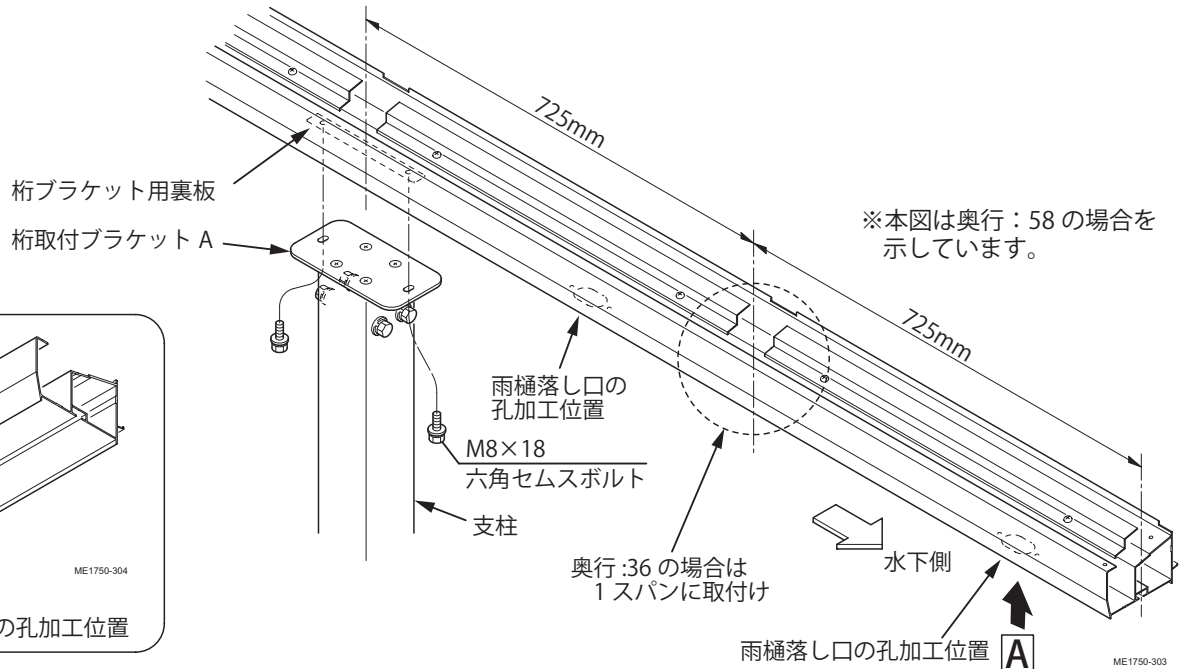
ME1750-305

桁の取付け

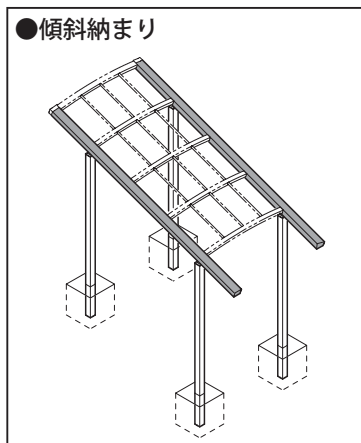
③ 桁を桁取付ブラケット A に仮止めしてください。



- 桁には、雨樋落とし口の孔加工位置により左右があります。
- 雨樋落とし口の孔加工位置を水下側に配置してください。



3-2 傾斜納まりの場合



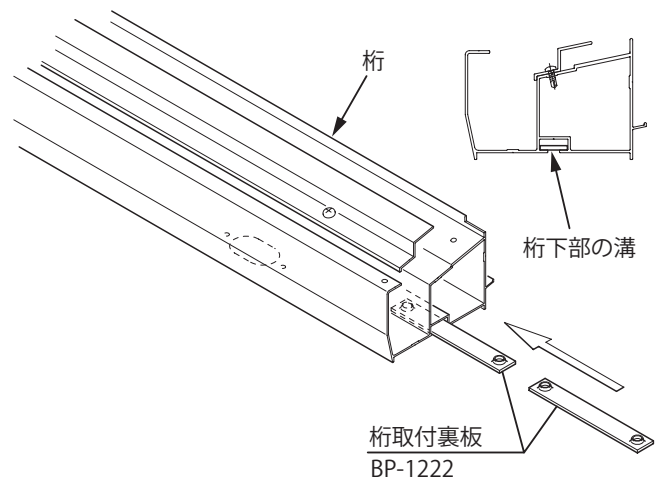
① 桁下部の溝に、桁取付用裏板を挿入してください。



桁 1 本につき裏板を 2 枚挿入してください。ただし、奥行:29 の場合は 1 枚挿入してください。



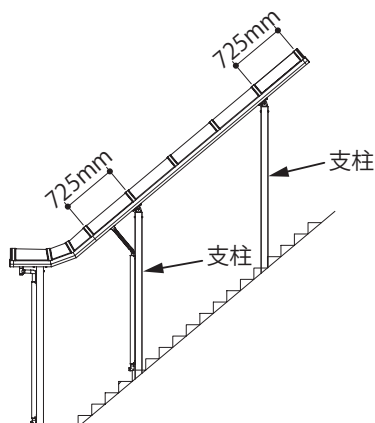
奥行:29 の桁を傾斜ジョイントに連結する場合は、柱が 2 本必要になります。



②「納まり図」と図を参照して、桁の取付位置を確認してください。

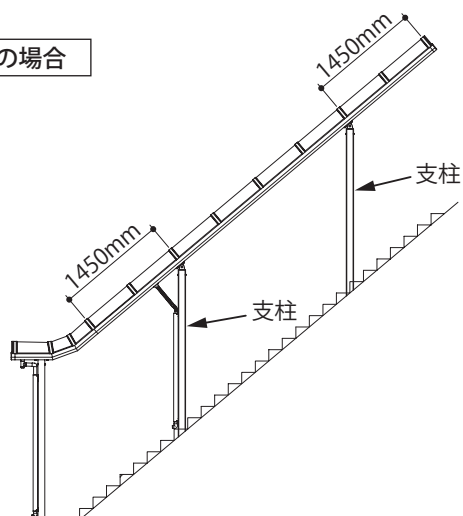
●取付位置図

奥行：36の場合



ME1750-310

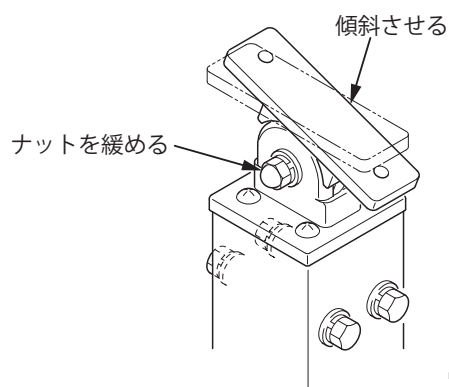
奥行：58の場合



ME1750-309

③傾斜用束柱のナットを緩めて、傾斜角度を合わせてください。

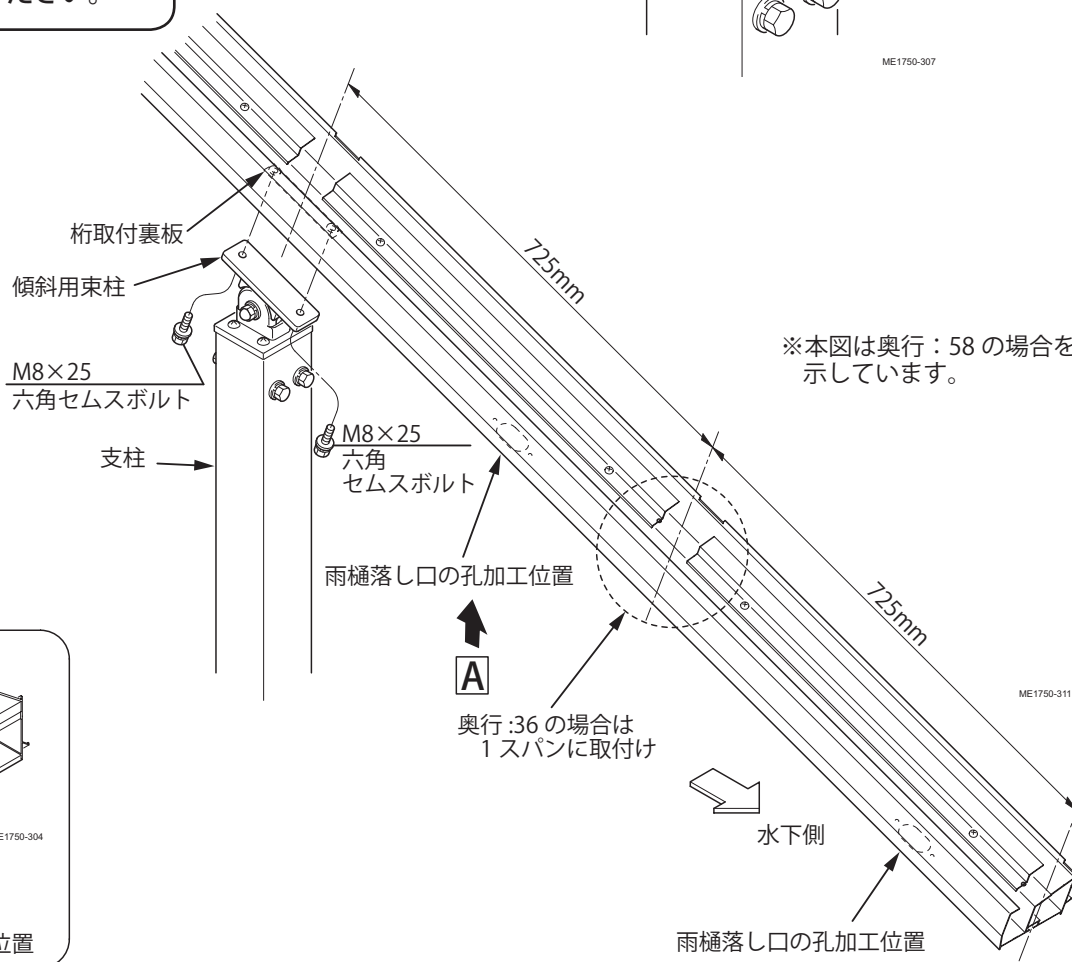
④桁を傾斜用束柱に仮止めしてください。



ME1750-307

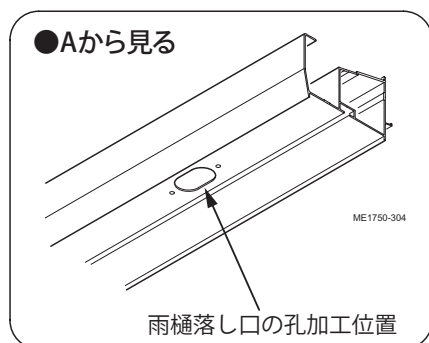


- 桁には、雨樋落とし口の孔加工位置により左右があります。
- 雨樋落とし口の孔加工位置を水下側に配置してください。



ME1750-311

●Aから見る



ME1750-304

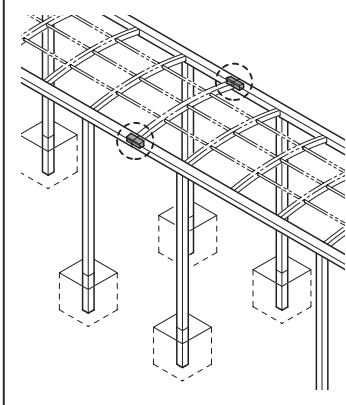
4

桁の連結

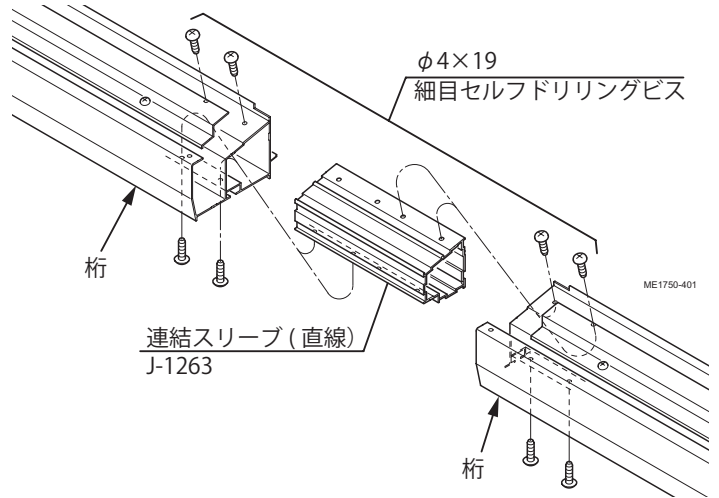
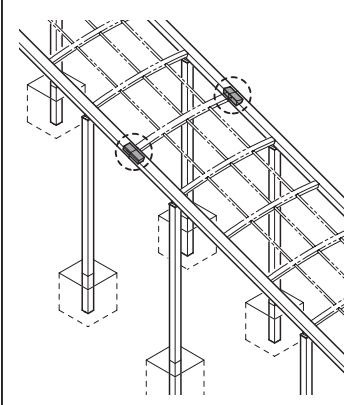
(※連棟・延長納まりの場合)

●連棟・延長納まりの場合に作業を行ってください。
※単体納まりの場合は不要です。

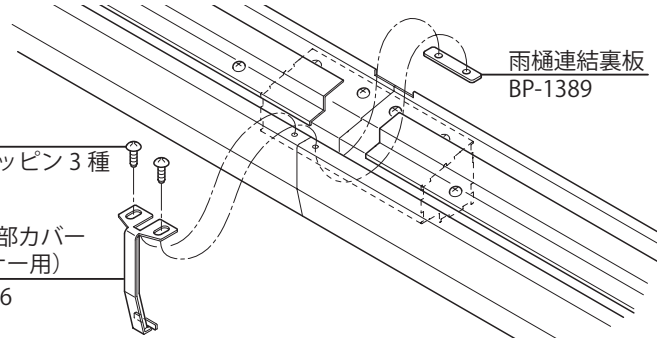
●平地納まり



●傾斜納まり



- ① 桁連結スリーブを使用して、2本の桁を連結してください。
- ② 桁連結部カバーの「のり面」の紙をはがし、桁の連結雨樋部に貼付けてください。
- ③ 雨樋連結裏板と桁連結カバーを共締めしてください。



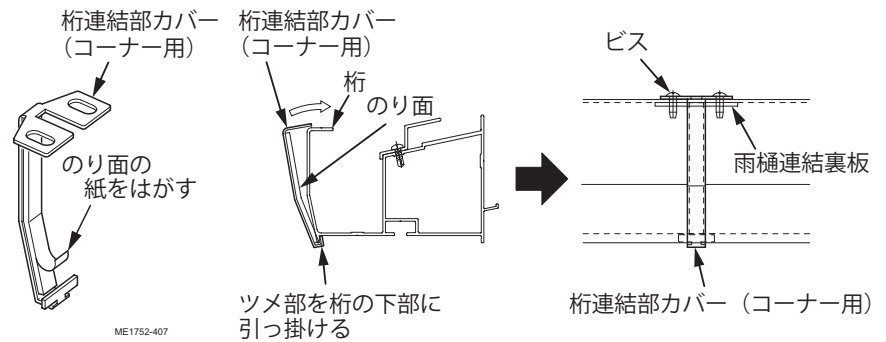
2本の桁にすき間ができないように連結してください。

●桁連結部カバーの取付方法

- ④ 止水パッキンの「のり面」の紙をはがし、桁の連結部上面に貼付けてください。



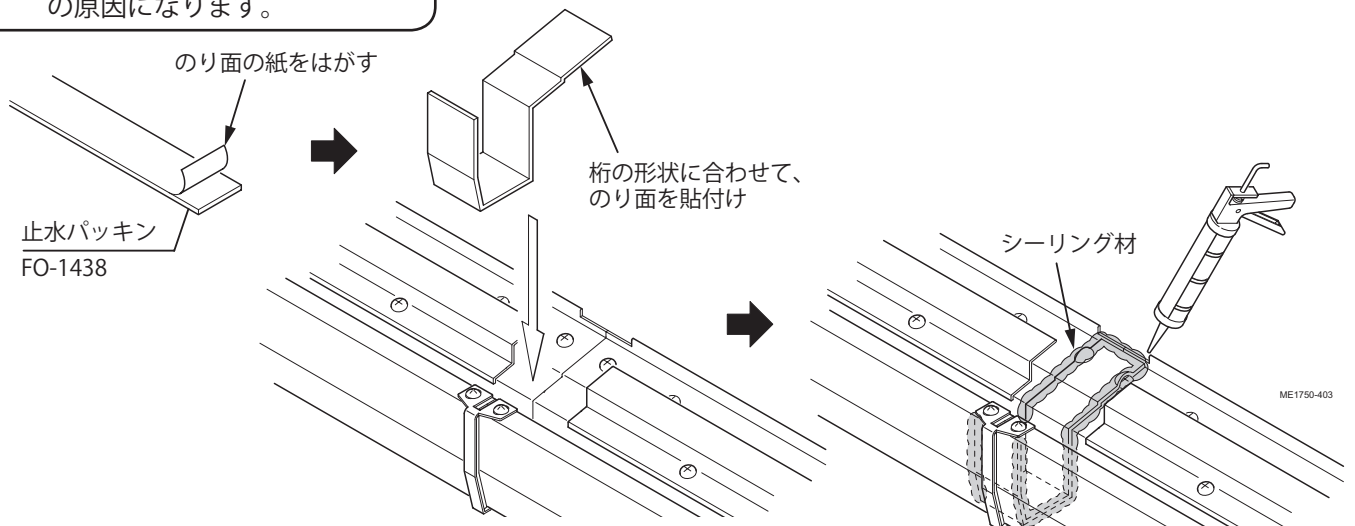
- 桁の形状に合わせて貼付けてください。
- 角部にすき間のないように貼付けてください。



- ⑤ 柱・桁の固定後、止水パッキンの周りにシーリング材で防水処理を行ってください。



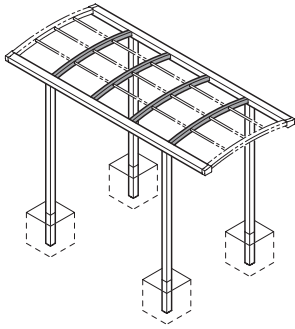
防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



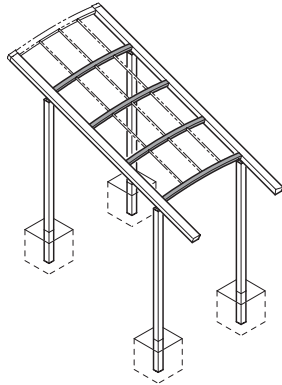
5

垂木の取付け

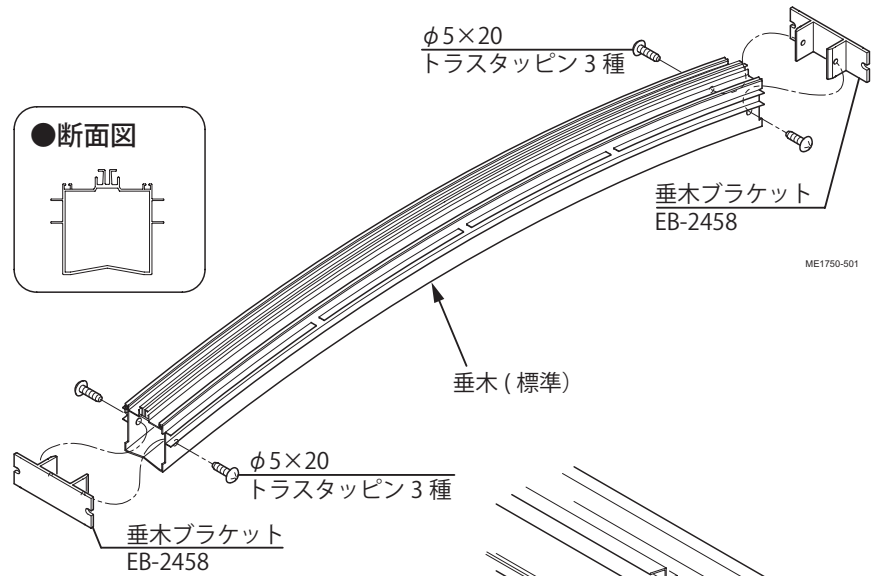
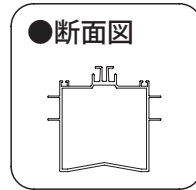
●平地納まり



●傾斜納まり

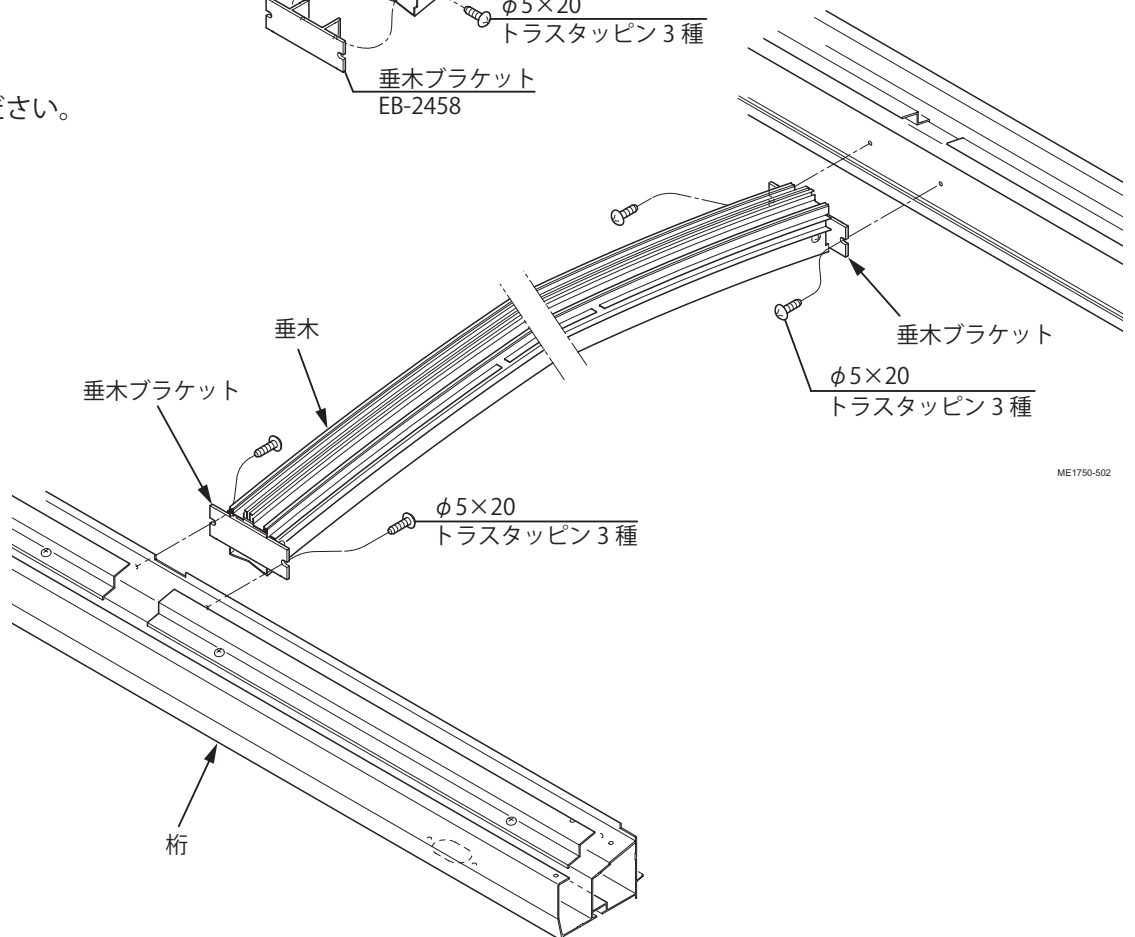


①垂木ブラケットを垂木の両端に取付けてください。



ME1750-501

②垂木を桁に取付けてください。



ME1750-502

垂木の取付け

- ③垂木排水部品を垂木の両側に取付けてください。

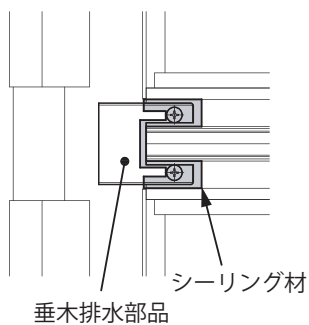


右図を参照して、垂木排水部品と垂木にすき間のないようにしてください。

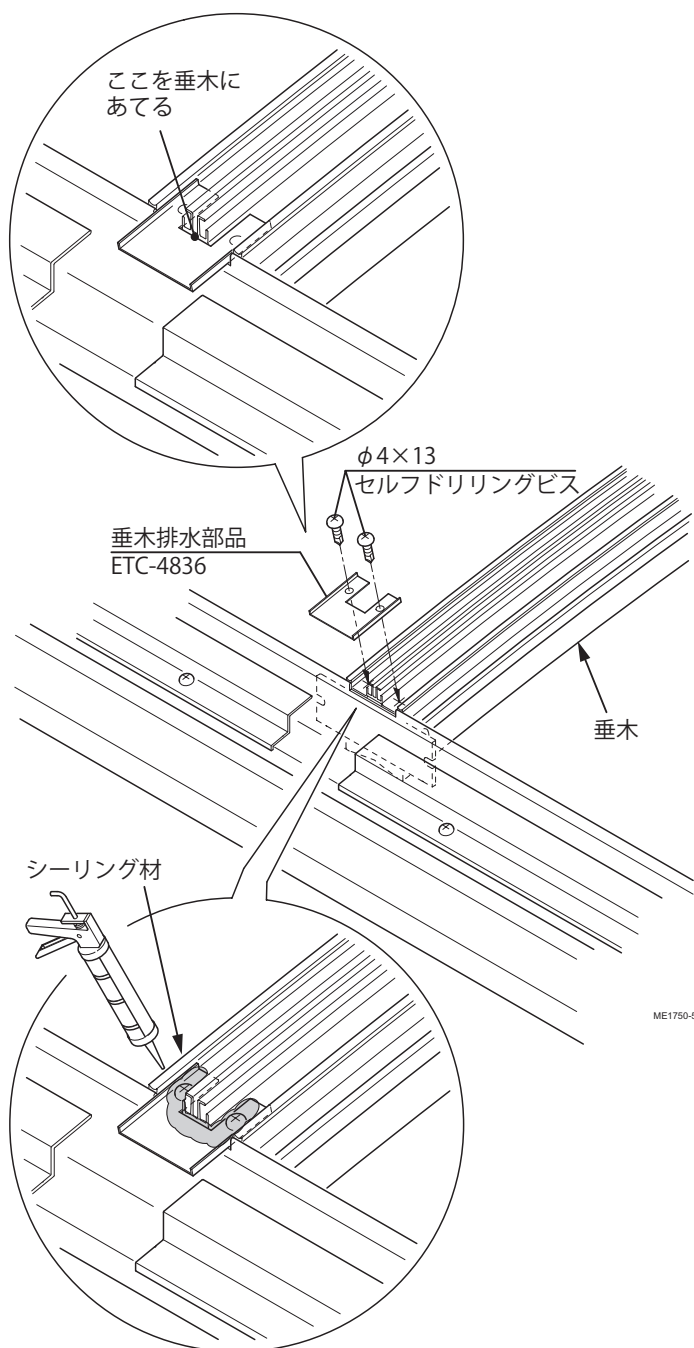
- ④垂木排水部品の取付部にシーリング材で防水処理を行ってください。



防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



ME1750-504

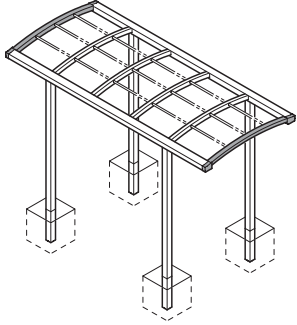


ME1750-503

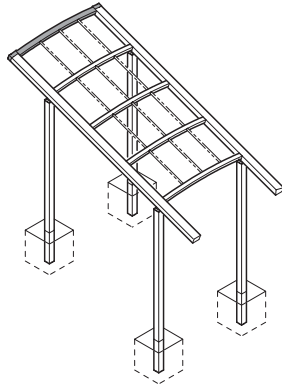
6

側枠の取付け

●平地納まり



●傾斜納まり



6-1 施工前の確認

- 本説明書では側枠の基本的な取付手順を説明しています。
- 各タイプごとの施工説明書を参照して、側枠の取付位置を確認してください。

平地納まりの場合

- ・直角コーナー納まりの場合は、直角コーナーユニットの施工説明書 [ME-1752] を参照してください。
- ・R コーナー納まりの場合は、R コーナーユニットの施工説明書 [ME-1753] を参照してください。

傾斜納まりの場合

- ・傾斜ジョイントまたはエンド底が取付きます。傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

6-2 側枠の取付け

- ①桁端部ブラケットを側枠の両端に取付けてください。



桁端部ブラケットの左右を間違えないようにしてください。

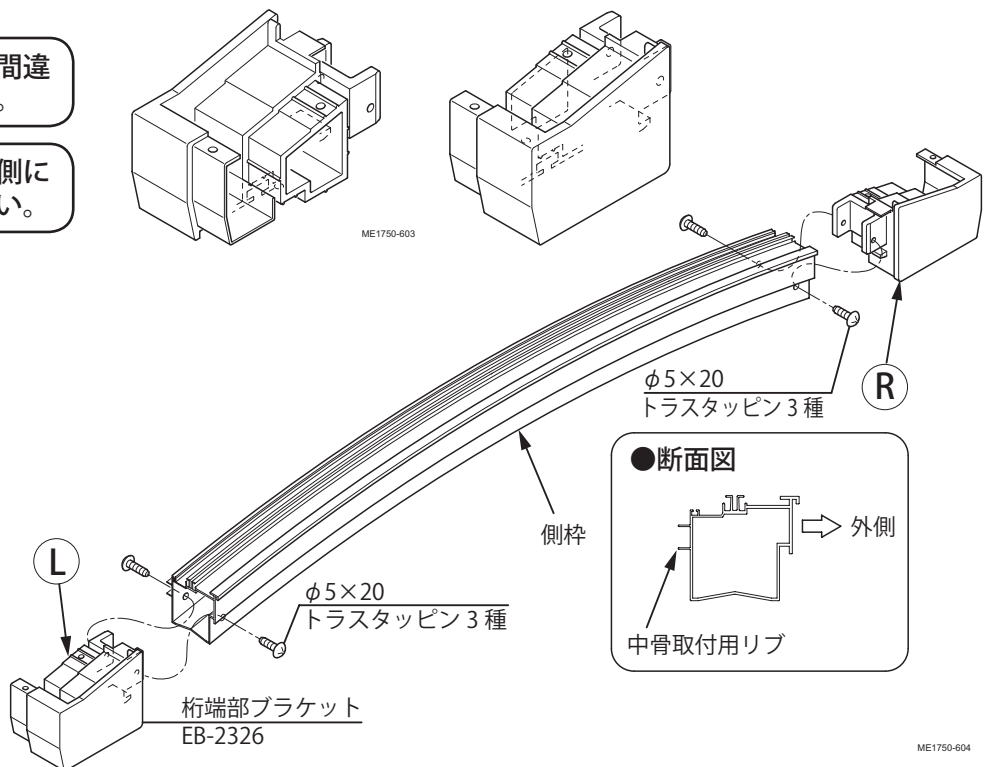
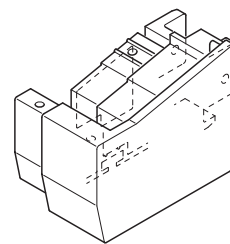
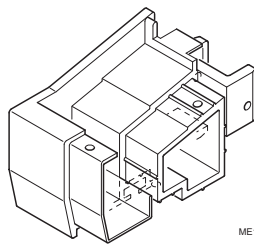


側枠の中骨取付用リブが内側になる向きで取付けてください。

●桁端部ブラケットの左右

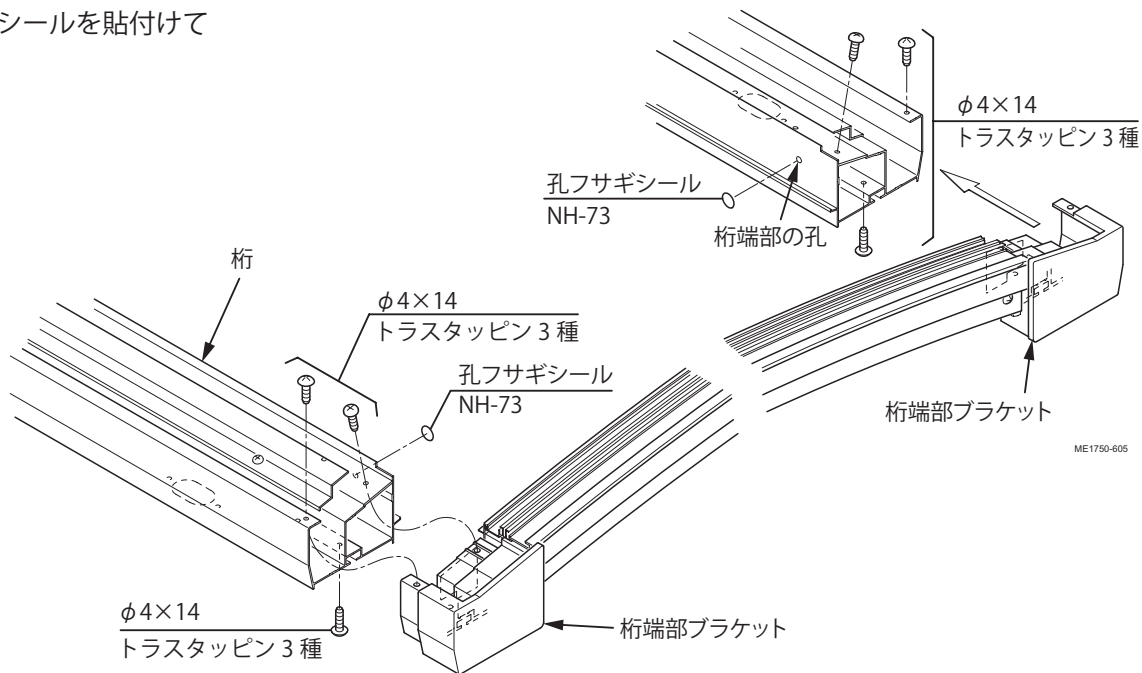
右用 (R)

左用 (L)



側枠の取付け

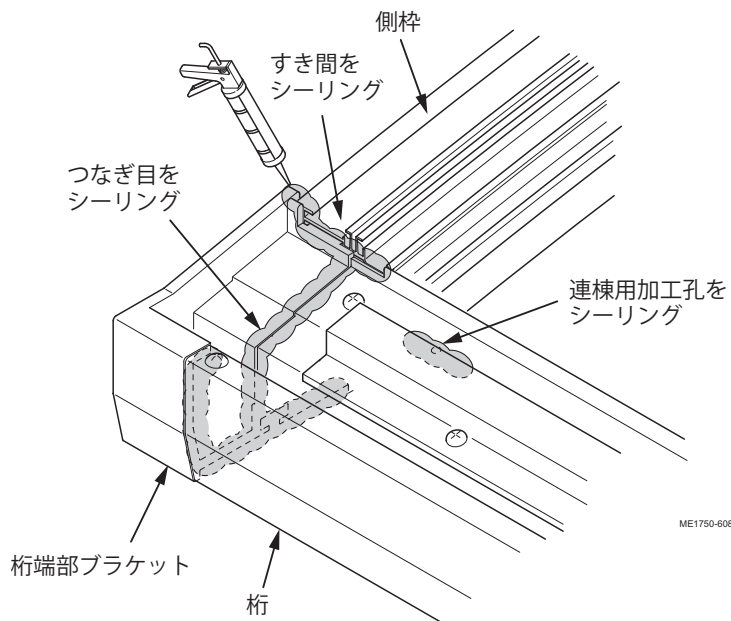
- ②側枠を桁に取付けてください。
- ③桁端部の孔に孔フサギシールを貼付けてください。



- ④桁端部ブラケットと桁のつなぎ目、および桁端部ブラケットと側枠のすき間にシーリング材で防水処理を行ってください。
- ⑤桁の連棟用加工孔をシーリング材でふさいでください。



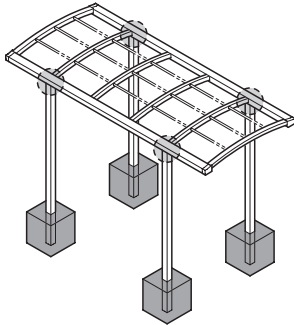
防水処理を確実に行ってください。
 ※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



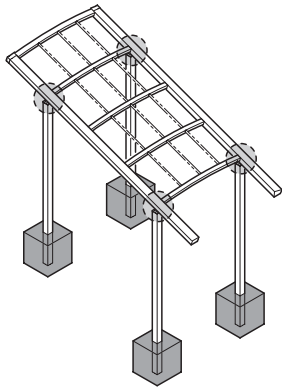
7

桁の本締めと コンクリートの打ち込み

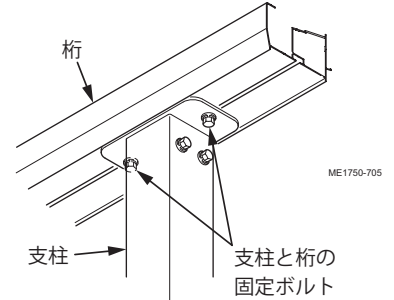
●平地納まり



●傾斜納まり



●Aから見る



①屋根の対角を合わせて、支柱と桁の固定ボルトを本締めしてください。

●平地納まりの場合



屋根の対角を確実に合わせてください。



支柱の間隔・垂直・平行レベルを正確に合わせてください。

※レベルが合っていないと、屋根材の取付不良の原因になります。



柱固定後、各連結部にシーリング材で防水処理を行ってください。

※防水処理を確実に行ってください。不完全だと、雨漏りなどの原因になります。

②コンクリートを流し込んでください。

③コンクリートが固まるまで養生してください。

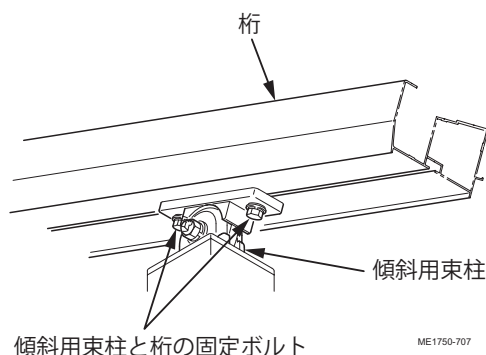
●傾斜納まりの場合



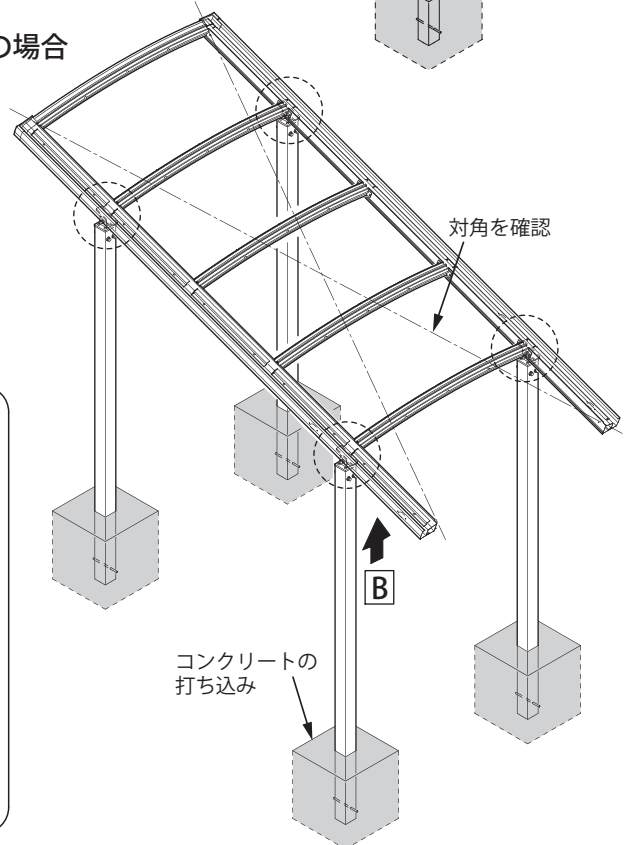
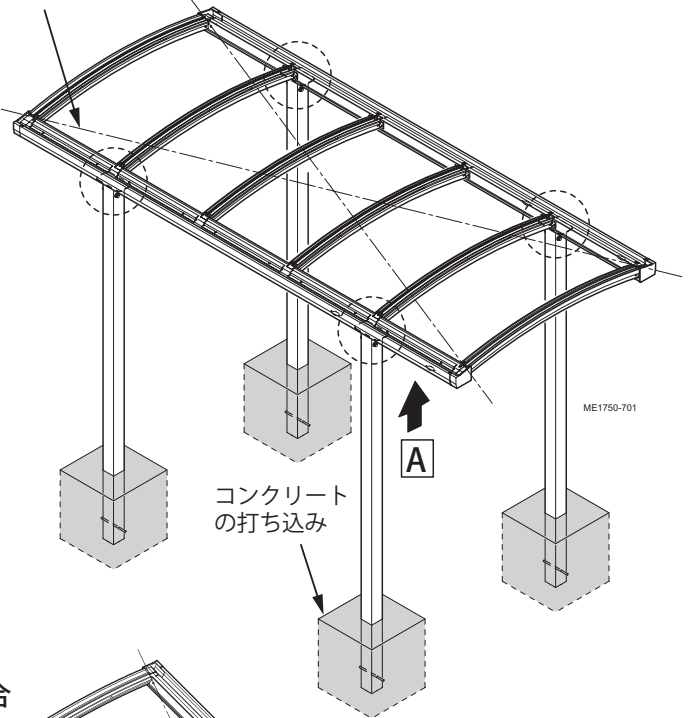
●埋め込み寸法：500mm

●養生期間：4日～1週間

●Bから見る



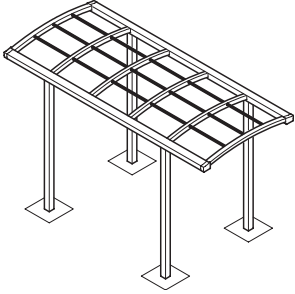
対角を確認



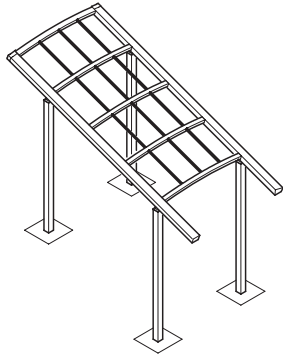
8

中骨の取付け

●平地納まり



●傾斜納まり



8-1 施工前の確認

- 本説明書では中骨の基本的な取付手順を説明しています。
- 各タイプごとの施工説明書を参照して、中骨の取付位置を確認してください。

平地納まりの場合

- ・直角コーナー納まりの場合は、直角コーナーユニットの施工説明書 [ME-1752] を参照してください。
- ・Rコーナー納まりの場合は、Rコーナーユニットの施工説明書 [ME-1753] を参照してください。

傾斜納まりの場合

- ・傾斜ジョイントまたはエンド庇が取付きます。傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

8-2 中骨の取付け

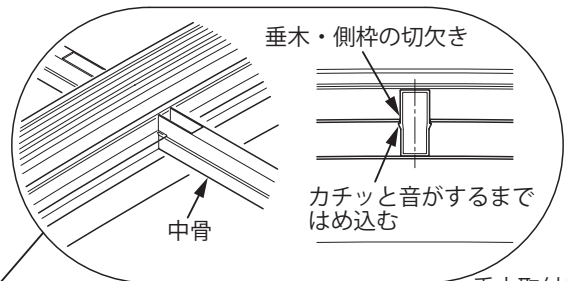
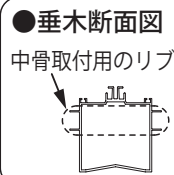
- ①中骨を側枠・垂木の切欠きにかちッと音がするまではめ込んでください。



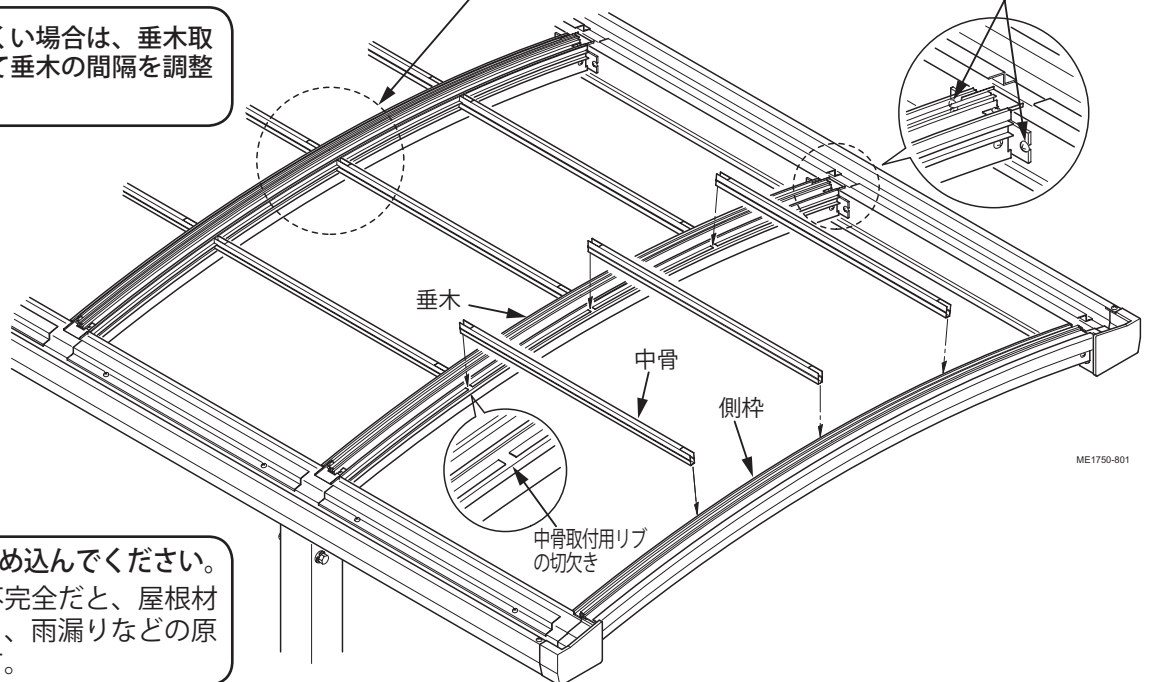
中骨の上下を間違えないようにしてください。



中骨が入りにくい場合は、垂木取付ビスを緩めて垂木の間隔を調整してください。



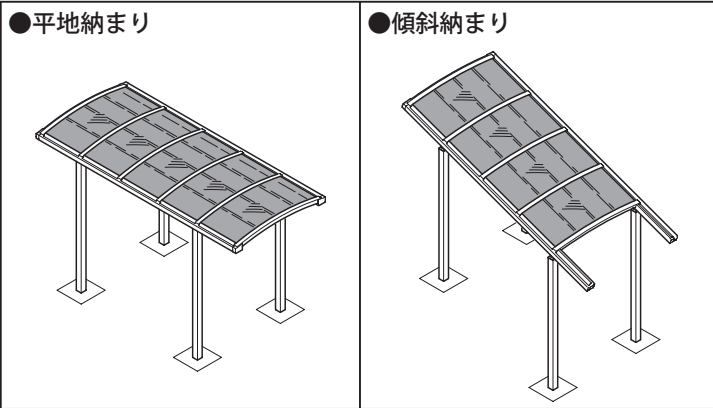
垂木取付ビス



中骨を確実にめ込んでください。
※はめ込みが不完全だと、屋根材が浮き上がり、雨漏りなどの原因になります。

9

屋根材の取付け



9-1 施工前の確認

- 本説明書では屋根材の基本的な取付手順を説明しています。
- 各タイプごとの施工説明書を参照して、屋根材の取付位置を確認してください。

平地納まりの場合

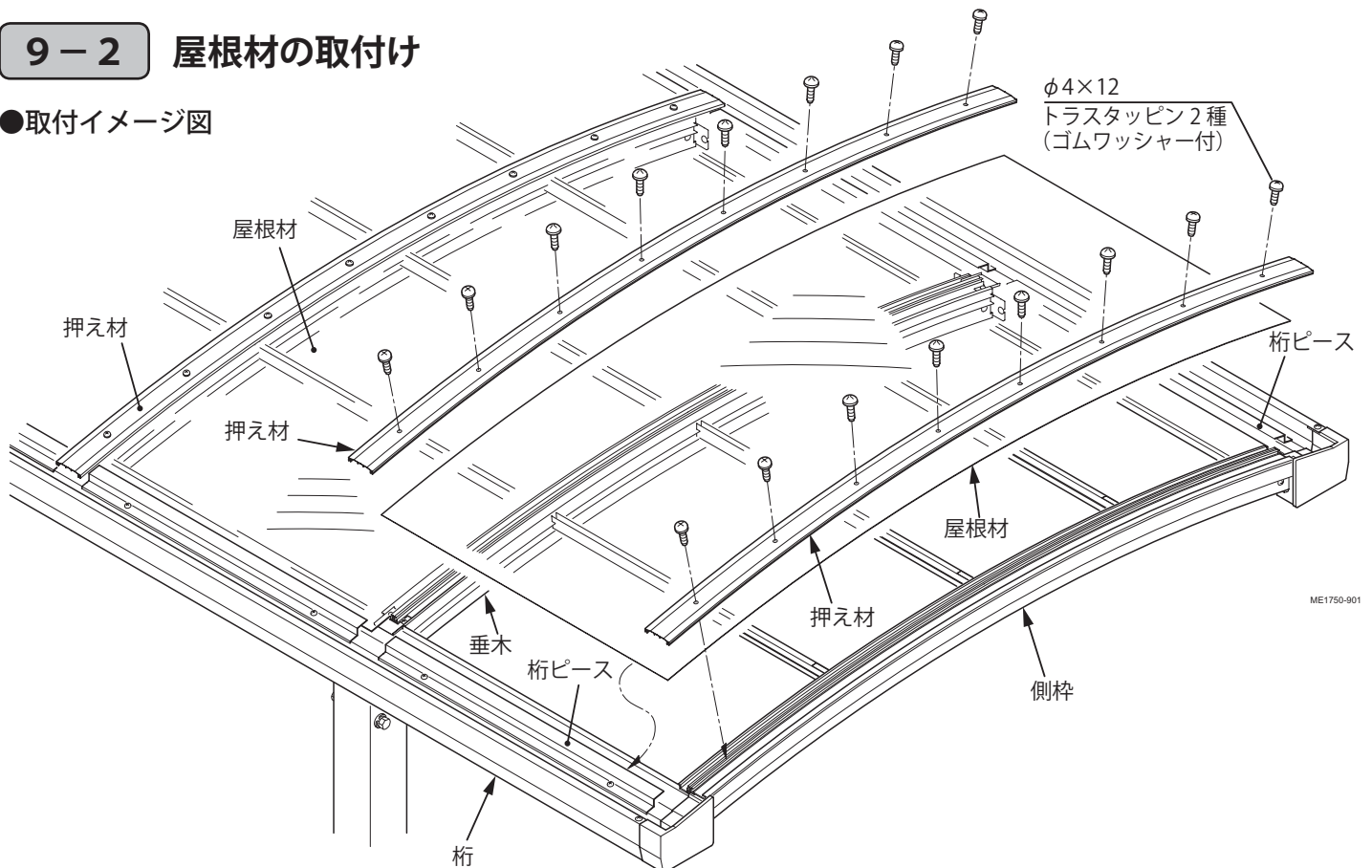
- ・直角コーナー納まりの場合は、直角コーナーユニットの施工説明書 [ME-1752] を参照してください。
- ・R コーナー納まりの場合は、R コーナーユニットの施工説明書 [ME-1753] を参照してください。

傾斜納まりの場合

- ・傾斜ジョイントまたはエンド底が取付きます。傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

9-2 屋根材の取付け

●取付イメージ図



屋根材の取付け

①屋根材のマスキングシートをはがしてください。

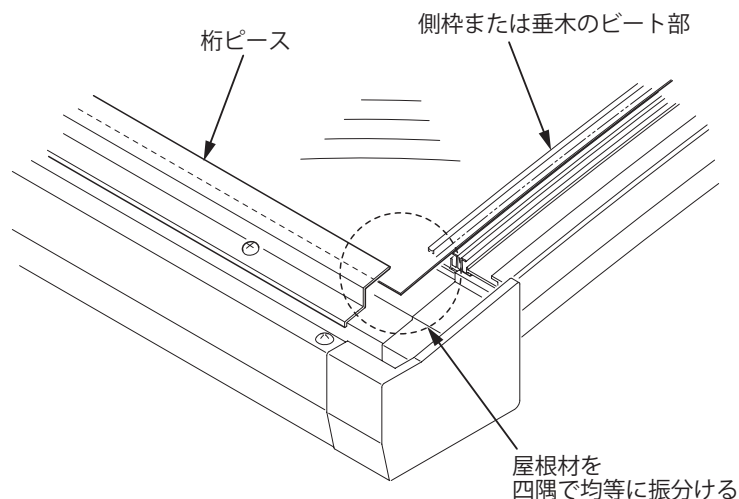


- 材質がポリカーボネートの場合は、表・裏があります。
- マスキングシートに天面表示があります。はがす前に確認してください。

②屋根材を桁ピースに差し込み、側枠または垂木のビード部に均等に載せてください。



屋根材を四隅で均等に振り分けてください。

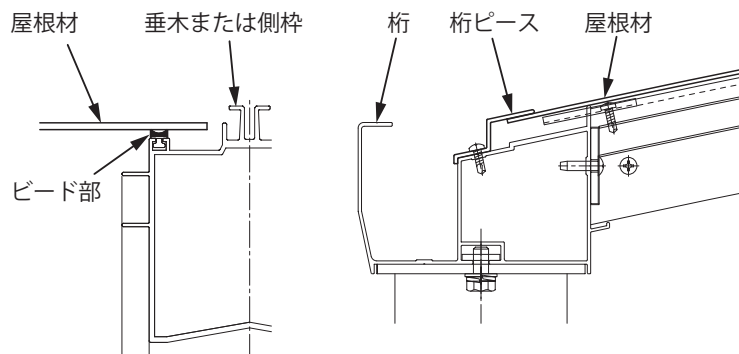


ME1750-903

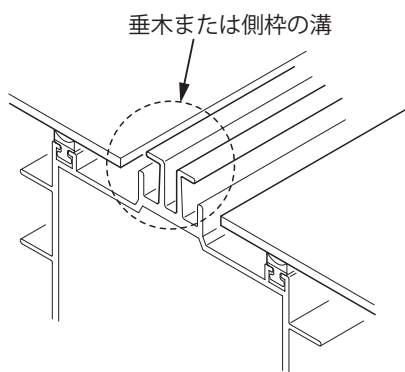
③押え材を垂木および側枠の溝に、ビスで固定してください。



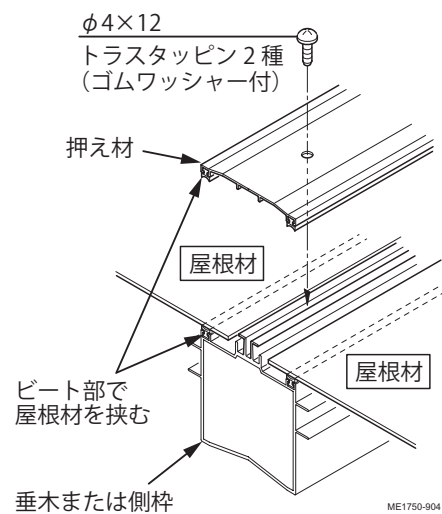
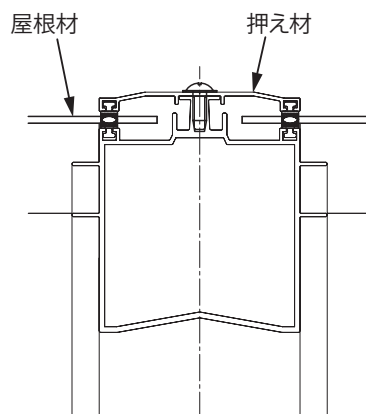
- 押え材をビス止めするとき、インパクトドライバーを使用しないでください。
- ビスが空回りする場合は、ペンチなどで垂木または側枠の溝を狭めてから再度ビス止めしてください。



ME1750-905



ME1750-902



ME1750-904

10A

雨樋の取付け

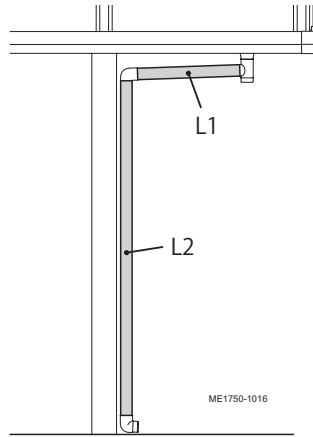
(※平地納まりの場合)

①縦樋を現場合わせで切断してください。

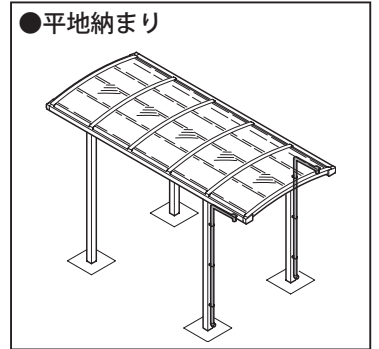
●縦樋標準寸法表 (柱移動なしの場合)

(mm)

| | | 奥行：58・29 | 奥行：36 |
|----|-----|----------|-------|
| L1 | | 1135 | 410 |
| | 標準柱 | 1935 | 1960 |
| L2 | | 2335 | 2360 |
| | 長柱 | 2335 | 2360 |

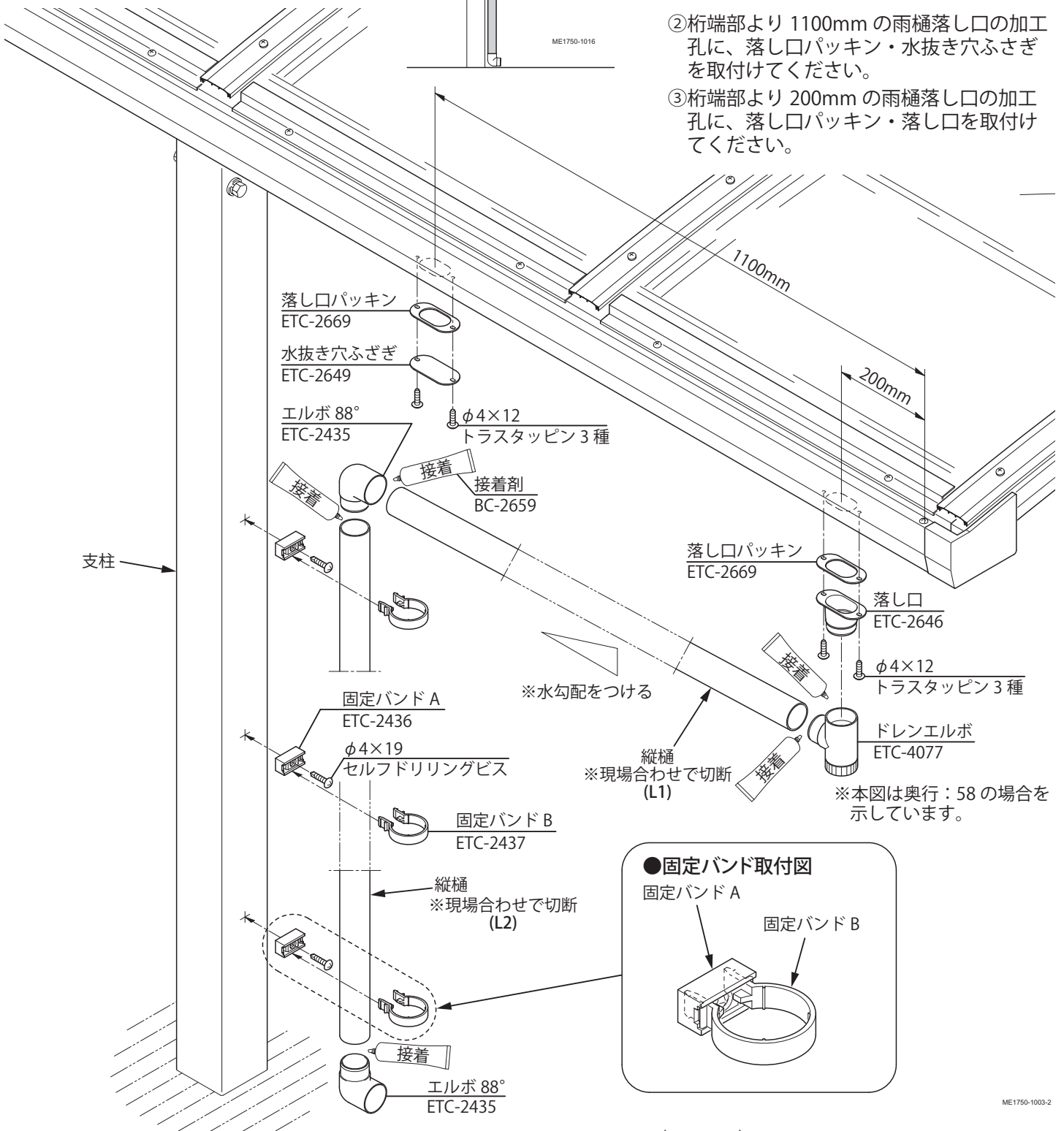


●平地納まり



②桁端部より 1100mm の雨樋落し口の加工孔に、落し口パッキン・水抜き穴ふさぎを取付けてください。

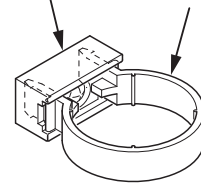
③桁端部より 200mm の雨樋落し口の加工孔に、落し口パッキン・落し口を取付けてください。



●固定バンド取付図

固定バンド A

固定バンド B



雨樋の取付け



奥行：36 の場合は、落水口と水抜き穴ふさぎの間に支柱が入りません。

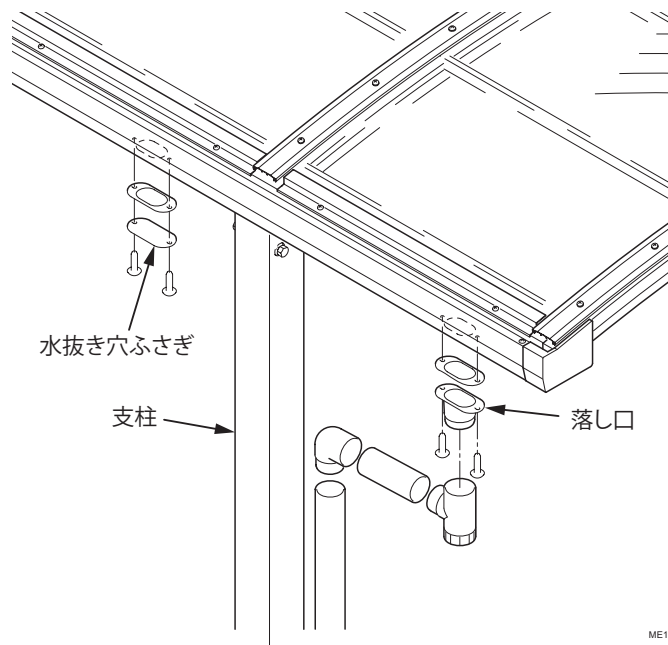
- ④前ページの図を参照して、その他の部品を仮組みし、接着剤で固定してください。



はみ出した接着剤はきれいに取り除いてください。

- ⑤支柱側の縦樋を固定バンドで支柱に固定してください。

●奥行：36 の場合



ME1750-1015

10B

雨樋の取付け

(※傾斜納まりの場合)

●奥行によって雨樋の位置が異なります。

奥行：58の場合



奥行：36の場合は、26ページを参照してください。

①縦樋を現場合わせで切断してください。

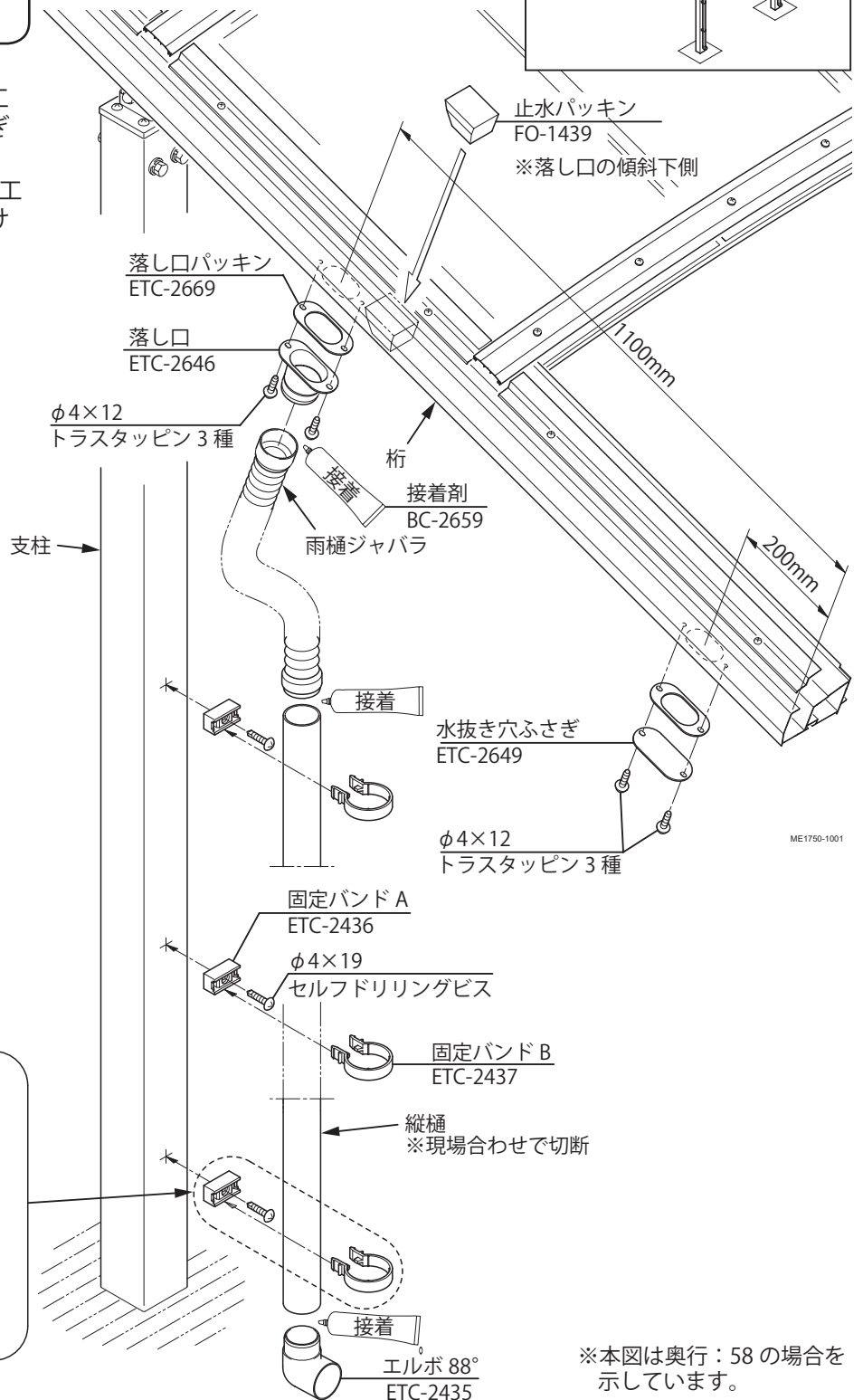
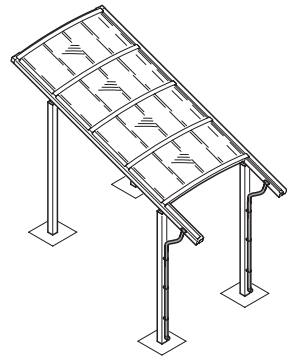


ジャバラ部に水が溜まらないように調整してください。

②桁端部より 200mm の雨樋落とし口の加工孔に、落とし口パッキン・水抜き穴ふさぎを取付けてください。

③桁端部より 1100mm の雨樋落とし口の加工孔に、落とし口パッキン・落とし口を取付けてください。

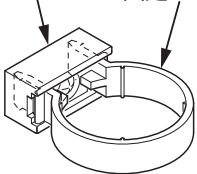
●傾斜納まり



●固定バンド取付図

固定バンド A

固定バンド B



※本図は奥行：58の場合を示しています。

雨樋の取付け

奥行：36の場合

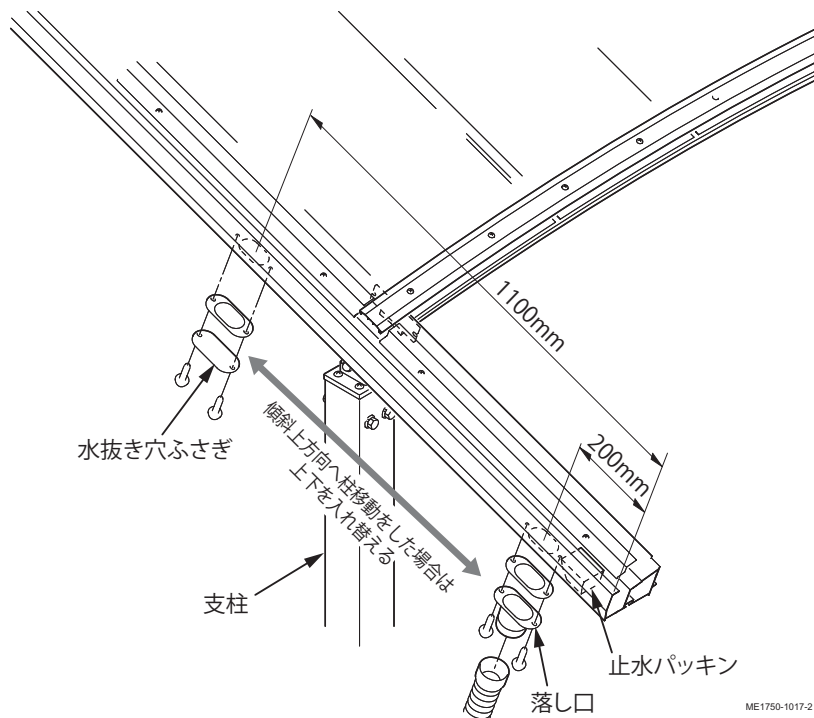
①縦樋を現場合わせで切断してください。

! ジャバラ部に水が溜まらないように調整してください。

②桁端部より 200mm の雨樋落し口の加工孔に、落し口パッキン・落し口を取付けてください。

③桁端部より 1100mm の雨樋落し口の加工孔に、落し口パッキン・水抜き穴ふさぎを取付けてください。

! 傾斜上方向に柱移動をした場合、落し口を上下入れ替えてください。



ME1750-1017-2

奥行：36/58 共通の手順

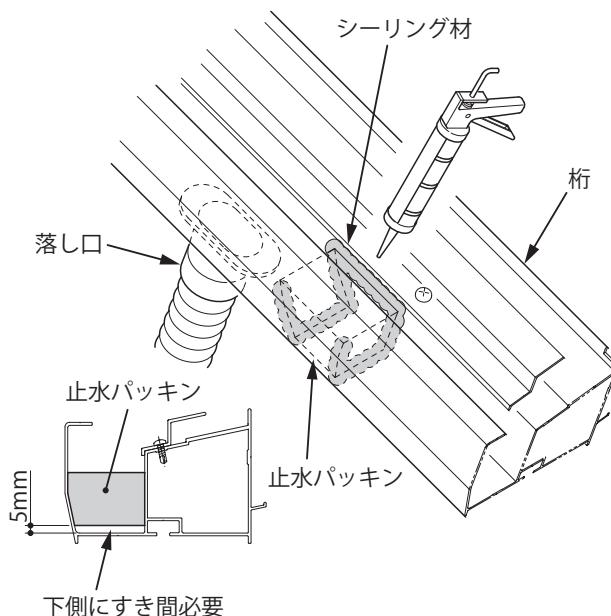
④止水パッキンを落し口の傾斜下側にはめ込んでください。

!

- パッキン下面に 5mm のすき間をあけてください。
- パッキンには左右があります。桁の形状にあわせて取付けてください。

⑤止水パッキンの周りにシーリング材で防水処理を行ってください。

! 防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



ME1750-1002

⑥前ページの図を参照して、その他の部品を仮組みし、接着剤で固定してください。

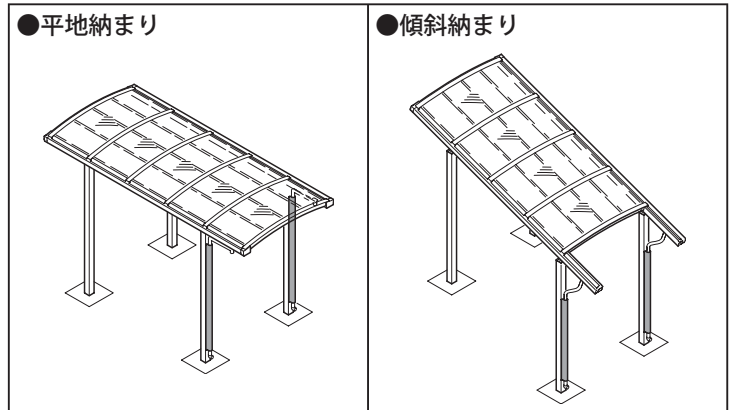
! はみ出した接着剤はきれいに取り除いてください。

⑦縦樋を固定バンドで支柱に固定してください。

11

縦樋カバーの取付け

(※オプション)



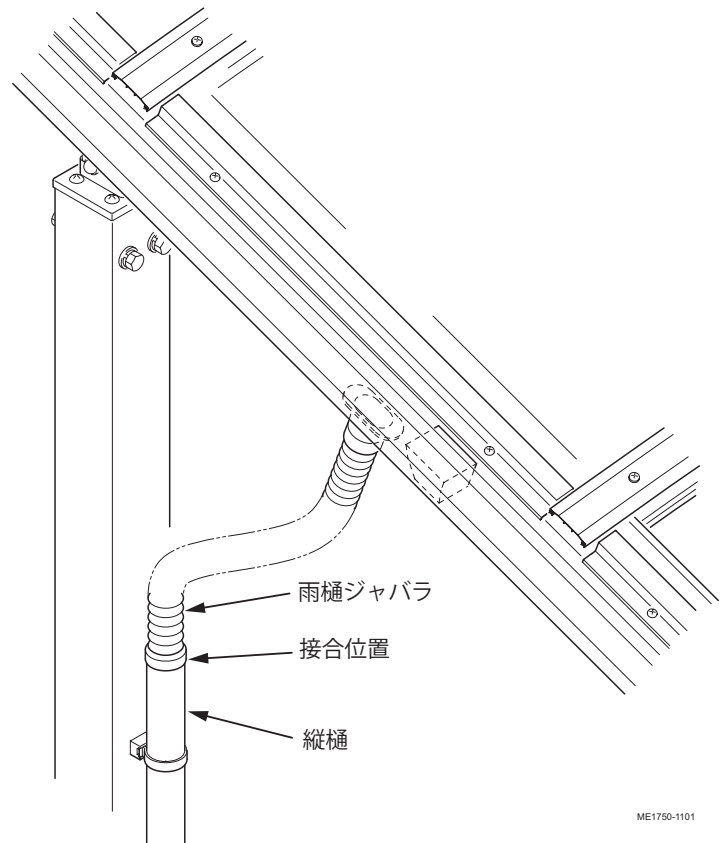
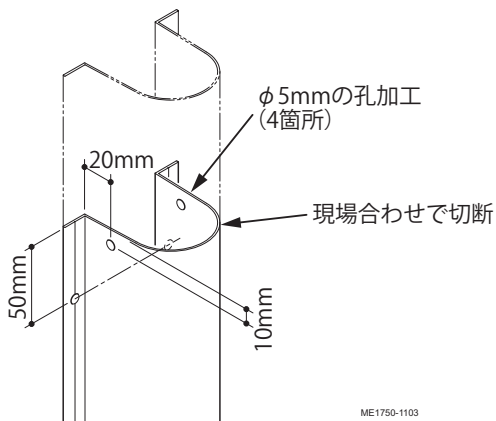
11-1 縦樋カバーの切断 (※傾斜納まりの場合)



傾斜納まりの場合に作業を行ってください。
※平地納まりの場合は不要です。

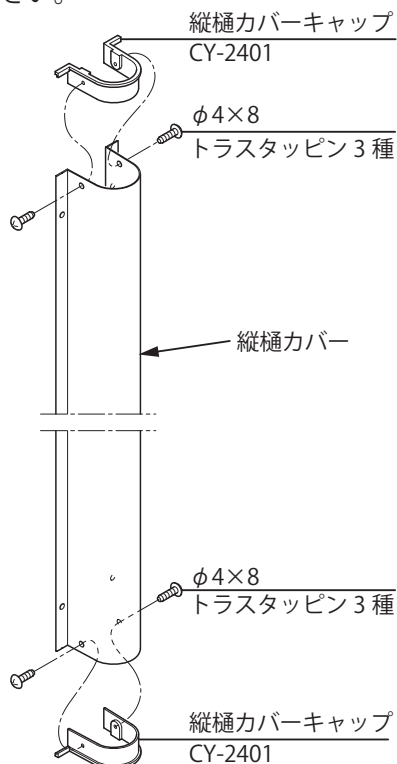
- ①雨樋ジャバラと縦樋の接合位置に合わせて、縦樋カバーを現場合わせて切断してください。
- ②切断後、下図の位置にφ5mmの下孔を4ヶ所あけてください。

●縦樋カバーの切断と下孔加工

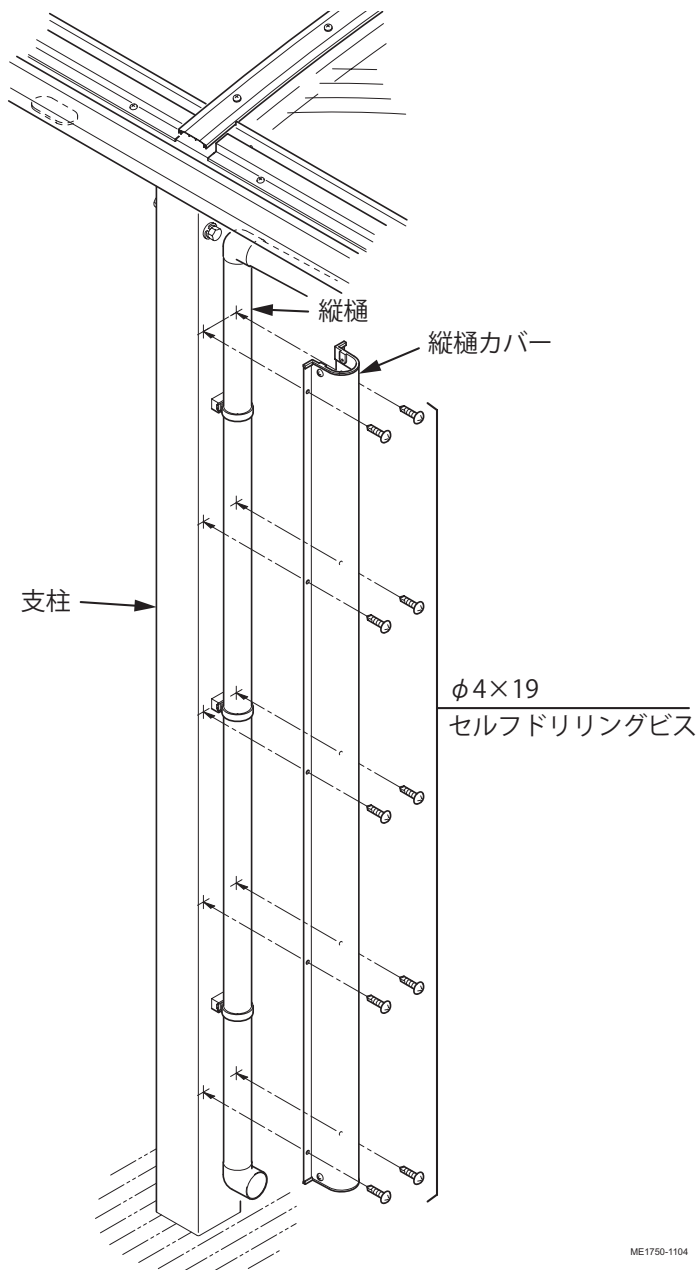


11-2 縦樋カバーの取付け

- ①縦樋カバーキャップを縦樋カバーに取付けてください。



- ②縦樋カバーを縦樋に取付けてください。




施工完了時の注意事項

- ビス・ボルト類が確実に締め付けられているか確認してください。
- 可動部品については作動チェックを行い、不具合がないか確認してください。また、必要に応じて調整してください。
- 使用上危険な箇所等がないか点検してください。

■施工工事店様、販売店様へのお願い

- 「取扱説明書」に基づき（同梱されているもののみ）商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。
- この施工説明書は、施工完了後施主様にお渡しください。

| | | | |
|-------|---------|---|---|
| 施工完了日 | 年 | 月 | 日 |
| 施工工事店 | TEL () | - | |
| 販売店 | TEL () | - | |

株式会社LIXIL この商品についてのご質問やご相談は右記の窓口にお問い合わせください。 お客様相談センター  0120-126-001